

令和7年度地震・津波防災訓練 (宮城県松島町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

宮城県松島町について

- 宮城県松島町は、宮城県の海岸部中央にあり、人口は令和8年2月1日時点で12,664人である。面積は約54km²であり、その半分程度は松島丘陵を中心とする森林である。
- 比較的温暖な太平洋気候により降雪量は少ない。
- 大小の奇岩が連なる松島は、日本三景に数えられ、全国有数の観光地となっている。
- 平成23年3月11日の東日本大震災では、震度6弱の地震、2.6mの津波を観測した。

主な被害想定

- 千島海溝、日本海溝、東北地方太平洋沖地震で大きな被害が想定され、最大クラスの津波シミュレーションで到達時間は73分と予測されている。



訓練概要

- 訓練想定：宮城県沖で震度6弱の地震により大津波警報が発表され、津波被害や家屋倒壊、土砂災害などの発生
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年10月15日(水)10:00～12:00
【地震・津波防災訓練】令和7年11月1日(土)10:00～12:00
【訓練実施後WS】 令和7年12月3日(水)10:00～11:30
- 主催：松島町
- 参加者数：約400名
- 参加機関：(磯島地区)陸上自衛隊、松島消防署、塩釜警察署、消防団、女性防火クラブ、社会福祉協議会、行政区、各地区自主防災組織、松島地区災害防止協議会
(海岸地区)松島観光協会、観光事業者、遊覧船業者、松島区自主防災組織、消防団、松島高校
- 訓練項目：緊急地震速報訓練、情報伝達訓練、シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難誘導訓練、避難所設置・運営訓練、避難者受入訓練
- 訓練の特色：磯島地区と海岸地区の2地区での訓練実施。
海岸地区では観光地という特性を踏まえ、観光客の避難誘導や帰宅支援に関する実動的な訓練を実施。
宮城県と共同運用している災害時の情報発信や避難所の受付に活用できる「みやぎ防災アプリ」の実証実験の機会としても活用。

訓練の成果

【成果】

- 観光客の多い土地において、住民や観光事業者だけでなく、観光客も現地に居る状況(土曜日開催)において実践的な訓練を実施できた。
英語、中国語、韓国語での避難誘導看板、実際に遊覧船に乗船した観光客の避難誘導など、観光協会が中心になって観光事業者と密に連携し、国内外からの観光客受け入れを想定した訓練となった。
- 訓練前ワークショップにおいて東日本大震災の経験も踏まえ、実地検証を通じて避難経路を変更するなど、災害対応の具体的な改善に繋がった。

【課題】

- 避難誘導だけでなく、避難所での避難生活や帰宅困難者支援など、外国人を含む観光客対応の備えについて、引き続き検討する必要がある。

10月15日(水) 10:00~12:00 訓練実施前ワークショップ

- 観光協会会長が東日本大震災の体験について講話し、松島高校生徒が松島町の防災について発表した。
- 観光地における避難誘導・帰宅困難者支援の課題を検討するワークを実施した。

▼松島高校による発表



▼グループワーク



11月1日(土) 10:00~12:00 地震・津波防災訓練

- 磯島地区と松島海岸地区で訓練を実施した。
- 磯島地区では、大津波警報発表を受け、災害対策本部を設置し、土砂災害に巻き込まれた住民の救出訓練を実施した。
- 松島海岸地区では、外国人観光客向けに英語、中国語、韓国語で避難誘導の看板を掲げ、住民や観光事業者が津波から避難する訓練を実施した。

▼災害対策本部で指示する松島町長



▼保健師による負傷者搬送



▼被災住民を発見・救出する消防団



▼松島町による避難訓練案内



▼遊覧船から避難する参加者



▼参加者によるテント体験



12月3日(水) 10:00~11:30 訓練実施後ワークショップ

- 訓練の振り返りと、松島ならではの訓練を活用した観光について意見を交換し、外国人向け防災ツアーを企画したいといった意見が挙がった。

▼松島高校によるグループワーク発表



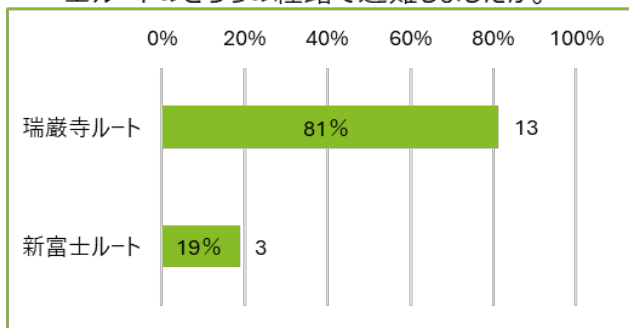
▼松島高校による発表



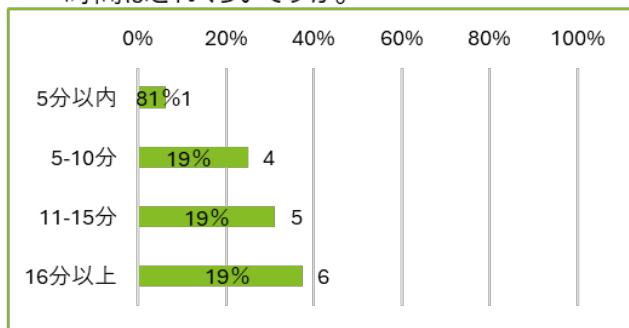
アンケート結果

回答数：16

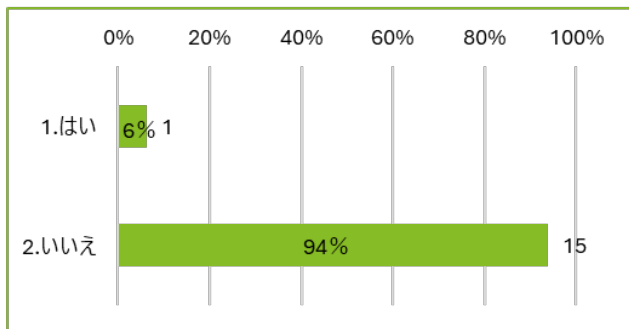
1. 11月1日の防災訓練では瑞巖寺ルートと新富士ルートのどちらの経路で避難しましたか。



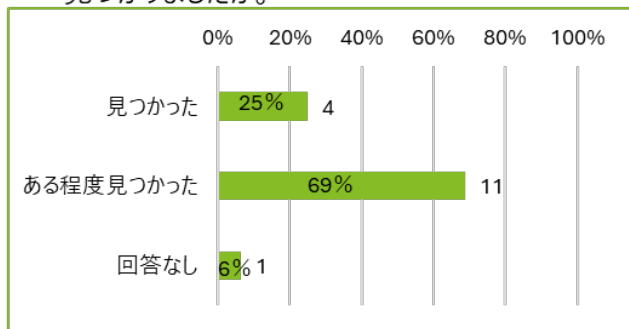
2. スタート地点から避難所に避難するまでの所要時間はどれくらいですか。



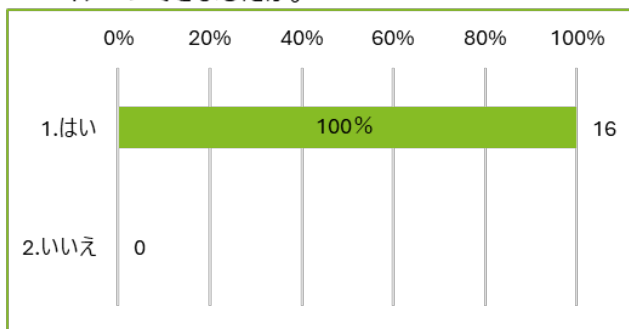
3. 避難経路に危険な場所や避難する上で不安に思うことはありましたか。



4. 今回のワークショップを通じて、自分の避難の行動や観光客の避難誘導等の課題や解決策は見つかりましたか。



5. 今回のワークショップを通じて、地域の災害リスクや課題、今後の改善に向けた取り組みについてイメージできましたか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (千葉県木更津市・内閣府)

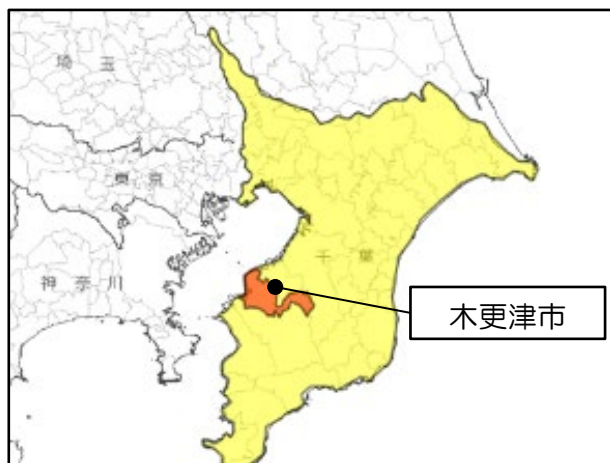
実施報告書 (概要版)

千葉県木更津市について

- 千葉県木更津市は、首都圏から50km圏内にあり、西は東京湾に臨み、東は市原市、北は袖ヶ浦市、南は君津市に隣接。人口は令和8年2月時点で136,685人である。
- 南房総・東京湾岸に位置する暖かなまちであり、東京湾アクアラインのたもとには盤洲干潟が広がり内陸部には万葉集にも登場する緑豊かな上総丘陵が存在。「都心から一番近い田舎」をキャッチフレーズとし、豊かな自然環境と都心へのアクセス性が魅力とされる。
- 防災ビジョンの目標として、①災害に強い住民・職員になる、②災害に備えるしくみをつくる、③災害に強いまちをつくるを掲げている。

主な被害想定

- 震度は、概ね、低地で6強、丘陵地で6弱と予測されており、液状化危険度は、概ね、低地で「危険度が高い」、「危険度がやや高い」と予測されている。



訓練概要

- 訓練想定：東京湾北部沖を震源とするM7.3の地震が発生、木更津市内で震度6強を観測。地盤が軟弱な地域を中心に液状化、家屋の倒壊等が発生。地震発生10分後に津波警報発表、地震発生40分後沿岸部に高さ1mの津波が到達。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年10月19日（日）13:30～16:30
【地震・津波防災訓練】令和7年11月23日（日）09:00～11:00
【訓練実施後WS】 令和7年11月23日（日）11:00～12:00
- 主催：千葉県、木更津市
- アドバイザー：宇都宮大学 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科
近藤伸也准教授
- 参加者数：3,552名
- 参加機関：木更津警察署、木更津消防本部等
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、訓練実施前・後ワークショップ、避難所設置・運営訓練、災害対策本部運営訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、物資配給訓練、炊き出し訓練、ボランティアセンター立ち上げ訓練、防災講話
- 訓練の特色：金田地区を主会場としつつ、市内全域で訓練を実施し、訓練内容も多岐にわたった。
訓練実施前ワークショップで避難先での生活、必要物資の種類や量、適切な避難先について参加者間で協議し、必要な備えを促した。
訓練に加え、訓練実施前・後のワークショップに小中学生の参加を促した。

訓練の成果

【成果】

- 訓練実施前ワークショップで多様なメンバーでのグループワークを実施したことで、住民の防災意識向上において十分な成果を出すことができた。
また、訓練及び訓練実施後ワークショップで振り返り、今後の取組についてさらに話し合うことでより具体化できた。
- 訓練全体としては円滑に運営されていた。一部の会場では消防車の展示や消火体験などで市民参加を促した。
- 小中学生の参加により幅広い世代が防災について考える契機となった。

【課題】

- 避難場所の場所が適しているのか改めて検討する必要があるとあり、地震・津波から避難するに当たり最適な避難場所・避難所であるかを訓練を通じて確認することとしている。

10月19日(日) 13:30～16:30 訓練実施前ワークショップ

- 「自らの命は自らが守る」という意識を向上させるため、訓練実施前ワークショップを開催した。
- 地域の災害リスクについて、避難先での必要な備えについて意見交換を実施した。

▼近藤アドバイザーによる講演



▼グループワーク



11月23日(日) 9:00～11:00 地震・津波防災訓練

- 木更津市役所駅前庁舎にて災害対策本部運営訓練を実施し、職員の参集から情報収集等の訓練を実施した。
- 木更津市全域において津波避難訓練を実施した。
- 市民の参加を促すため、消防車の展示や消火体験を実施した。

▼災害対策本部事務局の運営を訓練



▼市内の各避難場所へ参集する市民



▼避難所にて配布した防災食の内容



▼オンライン会議システムを通じて市長から各避難所へメッセージを送信



▼市民参加を促すための消火体験



11月23日(日) 11:00～12:00 訓練実施後ワークショップ

- 訓練の振り返り・今後の取り組みについて意見交換をした。
- 時間帯の変化、季節の変化による防災対策について考える機会となった。

▼グループに分かれた振り返り



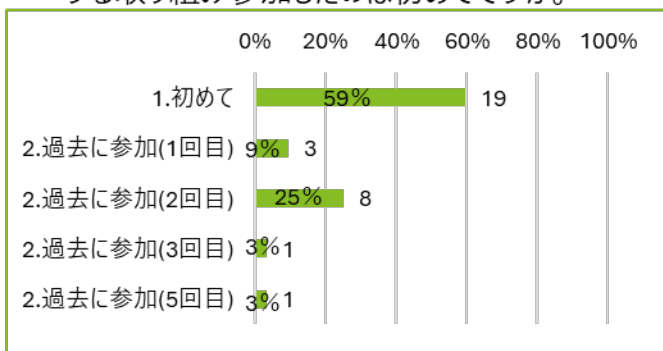
▼各グループからの発表



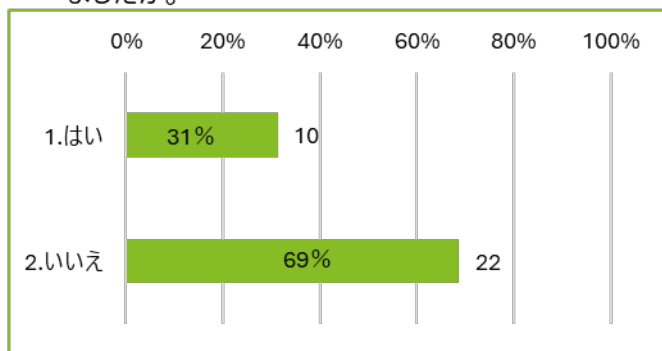
アンケート結果

回答数:32

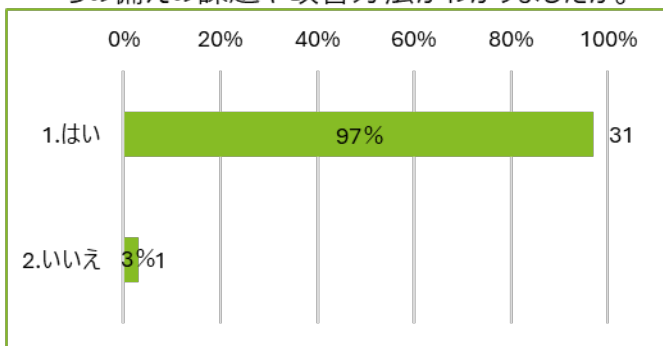
1. 防災訓練やワークショップのような地域防災に関する取り組み参加したのは初めてですか。



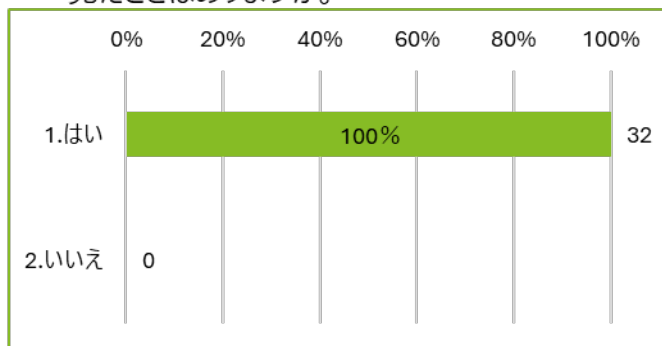
2. 11月5日が「津波防災の日」であることをしていますか。



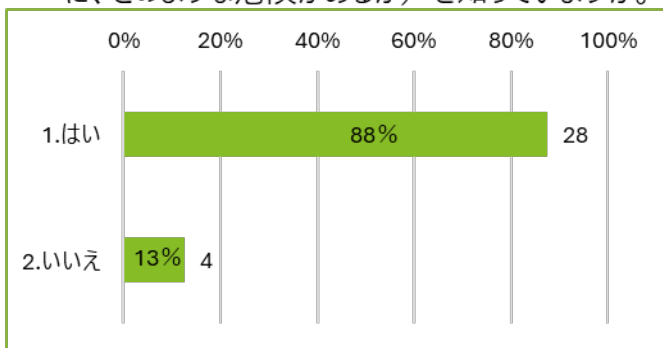
3. 今回のワークショップに参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法がわかりましたか。



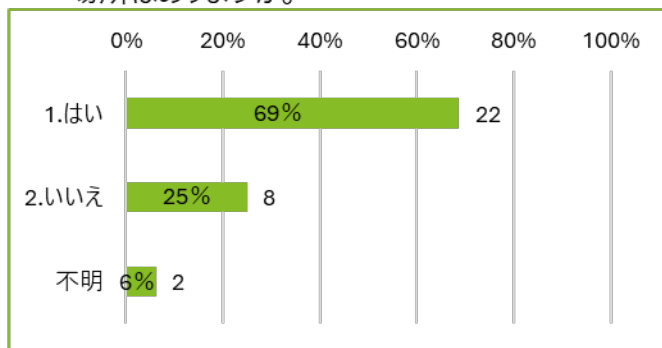
4. 木更津市が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか。



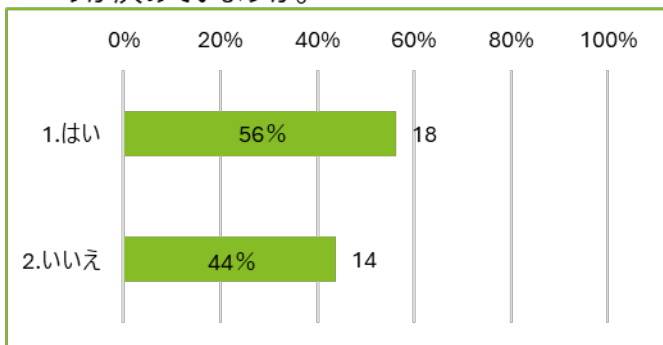
5. 災害のリスク（災害時、お住まいの地域のどこに、どのような危険があるか）を知っていますか。



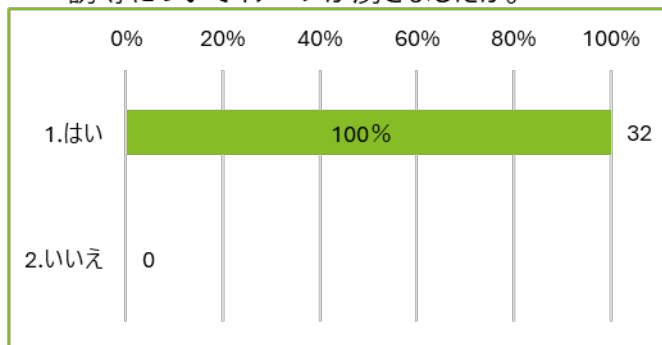
6. 自宅や職場から避難所への避難経路に危険な場所がありますか。



7. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うか決めていますか。



8. 今回のワークショップを通じて、観光客等の避難誘導についてイメージが湧きましたか。

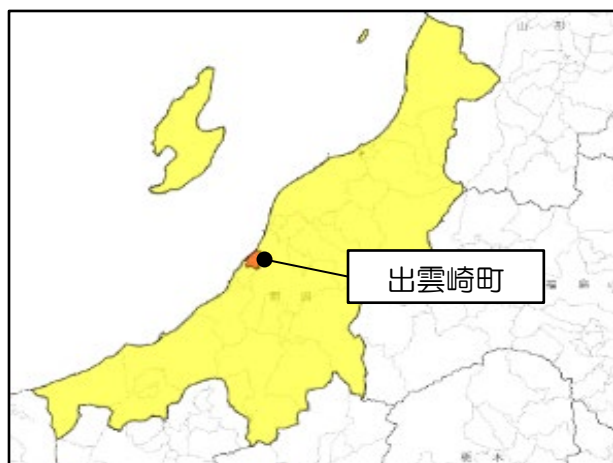


令和7年度地震・津波防災訓練 (新潟県出雲崎町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

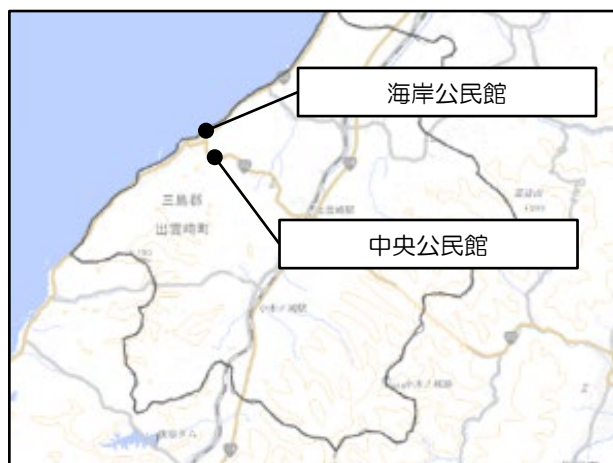
新潟県出雲崎町について

- 新潟県出雲崎町は、新潟県のほぼ中央に位置し、約10kmに及ぶ海岸線を有する。人口は、令和7年3月時点で3,831人である。
- 日本海型気候で、春秋は晴天の日が多く温暖であるが、梅雨期から8月にかけて雨量が増加し、集中豪雨に見舞われることがある。
- 農業と漁業を中心とした第一次産業が長く産業の中心であったが、近年は観光等の第三次産業が増加している。



主な被害想定

- 平成19年7月の中越沖地震での被害に基づき、M6.8、震度6弱を想定している。
- 集落が海岸沿いに集中しているため、地震発生直後に津波が到達し、道路の損壊、津波による指定避難場所等の孤立化が予想される。



訓練概要

- 訓練想定：新潟県佐渡沖でM7.5の地震が発生し、出雲崎町では震度6強を観測し、津波警報が発表される
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年10月11日(土)10:00～11:40
【地震・津波防災訓練】令和7年10月19日(日)9:00～10:00
【訓練実施後WS】 令和7年10月19日(日)10:30～12:00
- 主催：出雲崎町、新潟県
- アドバイザー：新潟大学危機管理センター 田村圭子教授
- 参加者数：100～200名
- 参加機関：行政区長、海上保安庁、防災士会
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、津波フラッグ設置訓練、アプリと電話を活用した安否確認訓練、ヘリコプターによる要救助者吊り上げ訓練、避難所設置・運営訓練、炊き出し訓練
- 訓練の特色：新潟県の総合防災訓練と同日に、出雲崎町では津波からの住民避難訓練を中心に訓練を実施した。
新潟県が開発中のアプリを活用し、指定緊急避難場所(29箇所)への一次避難完了後、区長がアプリと電話で安否確認を実施した。
一次避難完了と併せて、第九管区海上保安本部による沿岸部でのヘリコプター吊り上げ救助訓練を実施した。

訓練の成果

【成果】

- あまり天候が良くなかったにも関わらず、訓練は概ね予定どおり実施され、多くの地域住民の参加を得ることができた。
- 防災士会が訓練前ワークショップから参加したことで、住民と防災士との連携の場となった。
- 出雲崎町の津波避難計画(案)を住民へ説明する機会となるとともに、ワークショップや訓練で住民自ら避難経路の確認をし、津波避難計画に住民の意見を反映する機会となった。

【課題】

- 大きな課題はなかったものの、今回の訓練により明らかになった下記の点については津波避難計画案へ反映することとしている。
 - ・ 一時避難場所から避難所へ向かう際の経路の検討
 - ・ 浸水域となる可能性がある箇所の避難経路の見直し

10月11日(土) 10:00～11:40 訓練実施前ワークショップ

- 出雲崎町が作成した津波避難計画（案）の説明後、避難経路に関するグループワークを実施した。
- 各参加者が家からの避難経路を確認した結果、一時避難場所まではたどり着けるが、その後の避難所への移動が必要となった場合、1時間程度の遠回りをするか山道を通らなければならない、困難であるといった意見が挙がった。

▼田村アドバイザーによる講演



▼グループワーク



10月19日(日) 9:00～10:00 地震・津波防災訓練

- 防災無線で地震発生を伝達後、住民が避難を開始した。
- 指定緊急避難場所への一時避難後、区長等がアプリと電話で安否確認を実施した。
- 沿岸部で、ヘリコプターによる吊り上げ救助訓練を実施した。
- 避難所設置・運営訓練と合わせて、キッチンカーによる炊き出し訓練を実施した。

▼住民同士での声の掛け合い



▼住民避難



▼アプリでの避難場所・安否確認報告



▼沿岸部に接近し、救助を行う



▼キッチンカー炊き出し訓練



10月19日(日) 10:30～12:00 訓練実施後ワークショップ

- 避難行動・経路に関する振り返りを実施した。
- 今回の訓練ワークショップに参加していない住民にも、今回の話し合いやワークショップの内容を周知し、共有することが大事であるとの意見が挙がった。

▼グループワーク

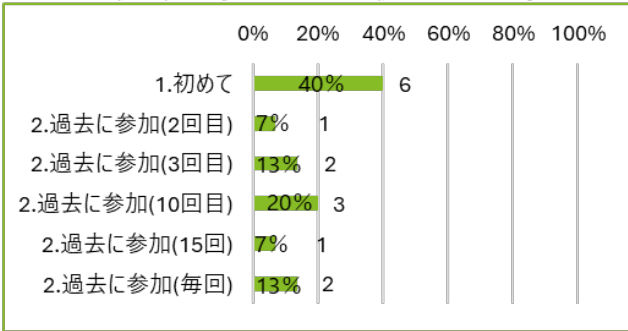


▼振り返り会議

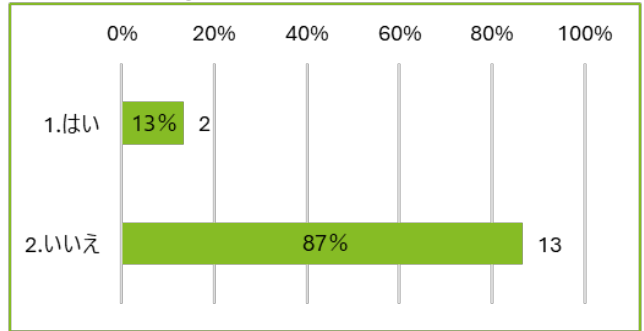


アンケート結果

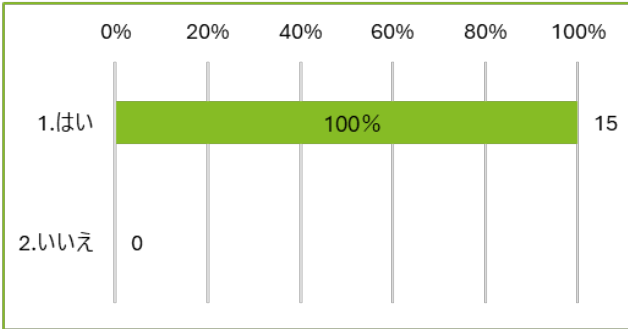
1. 防災訓練やワークショップのような地域防災に関する取り組み参加したのは初めてですか。



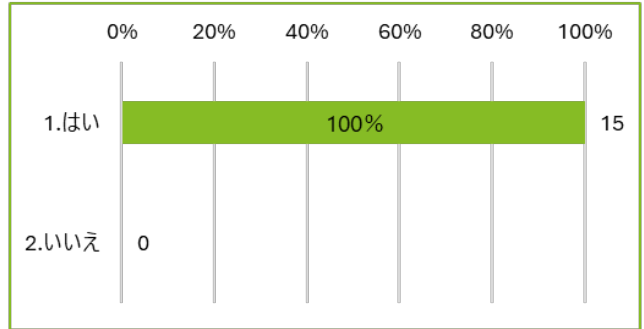
2. 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていましたか。



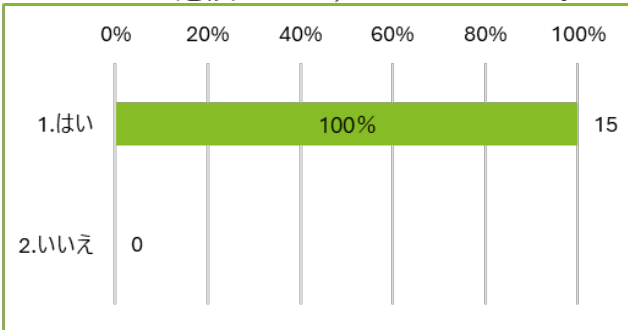
3. 今回のワークショップに参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法が分かりましたか。



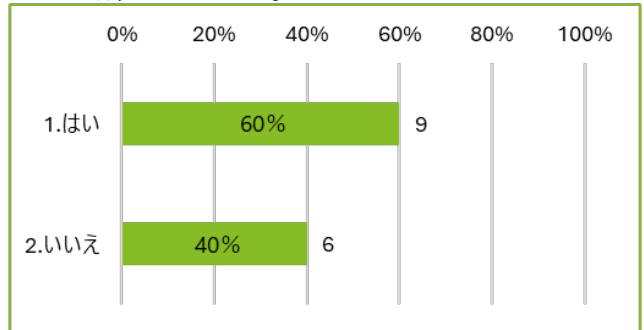
4. 出雲崎町が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか。



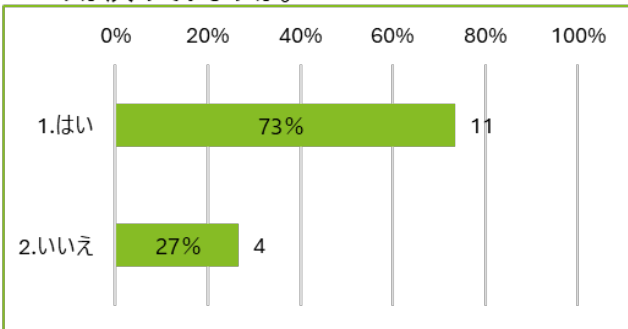
5. 災害のリスク（災害時、お住まいの地域のどこに、どのような危険があるか）を知っていますか。



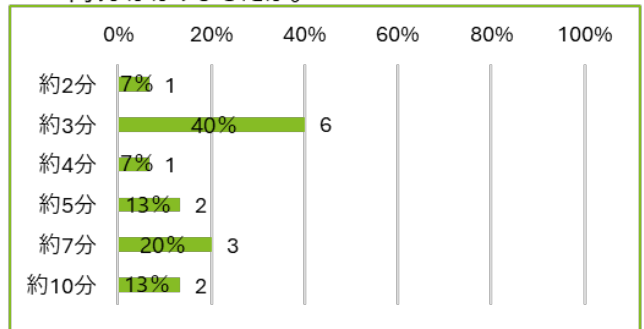
6. 自宅や職場から避難所への避難経路に危険な場所はありますか。



7. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うか決めてありますか。



8. 今地震発生時にいた場所から避難先までおよそ何分かかりましたか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (大阪府岸和田市・内閣府)

実施報告書 (概要版)

大阪府岸和田市について

- 大阪府岸和田市は、人口190,658人(令和2年国勢調査)であり、海側の市街部に人口が集中している。
- 全国的には「岸和田だんじり祭」や岸和田城で知られる。臨海部は埋立地の工業地帯となっているほか、水産業も盛んで、府内屈指の漁獲量となっている。
- 南海トラフ地震が発生した場合、著しい被害が生ずるおそれがあるため、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されている。



主な被害想定

- 南海トラフ地震、上町断層帯地震、中央構造線断層帯地震で、大きな被害が出るのが想定されており、最も被害が大きいとされている南海トラフ地震が発生した場合、マグニチュードは9.0、最大震度は6弱、建物被害は8,261棟、死者は1,908人と想定されている。
- 南海トラフ地震が発生した場合には、沿岸部を中心に広域での浸水のおそれがある。



訓練概要

- 訓練想定：南海トラフ地震が発生し、津波警報が発表される。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年12月16日（火）13:00～15:00
【地震・津波防災訓練】令和8年1月16日（金）13:05～14:40
【訓練実施後WS】 令和8年1月16日（金）14:40～15:00
- 主催：岸和田市
- アドバイザー：関西大学社会安全学部 奥村与志弘 教授
- 参加者数：257名
- 参加機関：野村中学校教員及び生徒、防災福祉コミュニティ（下野町連合町会防災協議会等）、岸和田警察署、大阪府危機管理室
- 訓練項目：教室内でのシェイクアウト訓練、校舎から校庭・校庭から地域の公民館への避難、リヤカー及び車椅子を活用した避難行動要支援者の避難支援、避難所の開設、備蓄品等展示
- 訓練の特色：校内での避難行動に加え、学年ごとにルートを分けて、避難所に見立てた近隣の地区公民館まで徒歩で避難を行う。
リヤカーや車いすに要支援者役の防災福祉コミュニティのメンバーを乗せて、避難所まで搬送支援する訓練を実施する。

訓練の成果

【成果】

- 中学生を主体とした全体で200名以上の参加となる大規模な訓練であったが、校外においても、大きなトラブルなく訓練を実施することができた。
- リヤカーや車いすを避難行動要支援者の避難支援の方法の一つとして活用できることが確認できた。
- 地震の揺れが2～3分続くことや、避難先はひとつではなく第2候補、第3候補などの選択肢があることが参加した生徒には伝わったと考える。
訓練前後のワークショップやアンケートにより自ら考える力がついた。

【課題】

- 野村中学校3年生によるリヤカーや車いすでの避難行動は、途中で段差に引っかかるなど円滑に進まない場面があり、想定より時間を要した。
- 本訓練の成果をどのようにして反映していくかが課題であり、今回の訓練において工夫した点や、大事なポイントをとりまとめた資料を作成して、沿岸部の自主防災組織や学校・企業などに対して、普及しつつブラッシュアップを図る必要がある。

12月16日(火) 13:00～15:00 訓練実施前ワークショップ

- ・ 訓練当日の具体的な避難行動の明確化と認知度向上のために訓練前ワークショップを実施した。
- ・ リヤカーや車いすの使い方のデモンストレーションを通して、避難支援の際、何に注意する必要があるのか明確になったという意見が挙げられた。

▼車いす・リヤカー使用方法の説明



▼車いすによる避難行動のデモンストレーション



1月16日(金) 13:05～14:40 地震・津波防災訓練

- ・ シェイクアウト訓練を実施後、教室から校庭まで避難を実施した。
- ・ 防災福祉コミュニティ同行のもと、避難・避難誘導訓練を実施した。
- ・ 防災福祉コミュニティのメンバーを要支援者と想定し、リヤカーや車いすでの避難支援を実施した。
- ・ 安否確認・備蓄品研修では、段ボールパーティー、備蓄品の解説をいただいた。

▼シェイクアウト訓練



▼避難場所への避難準備



▼中学1年生による避難行動



▼リヤカーで避難を支援



▼車いすでの搬送



▼備蓄品の解説



1月16日(金) 14:40～15:00 訓練実施後ワークショップ

- ・ 訓練の振り返りと今後必要な防災対策について、訓練実施後ワークショップで話し合った。
- ・ 車いすでの避難は、長時間に及ぶと運ぶ側の負担も増えるため、正しい姿勢で行う必要があるといった意見が挙げられた。

▼振り返りのワーク



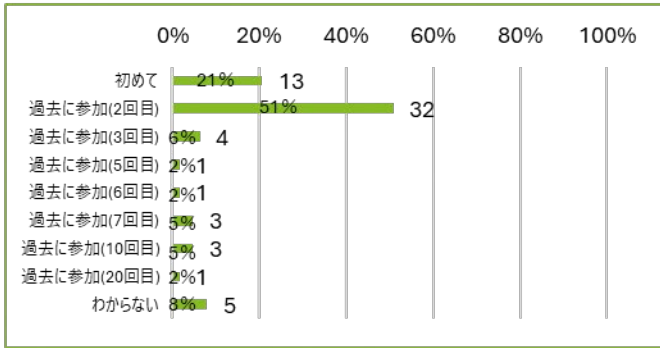
▼奥村アドバイザーによるコメント



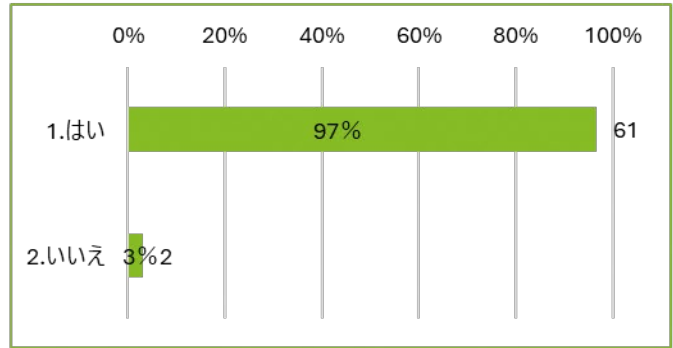
アンケート結果

回答数：63

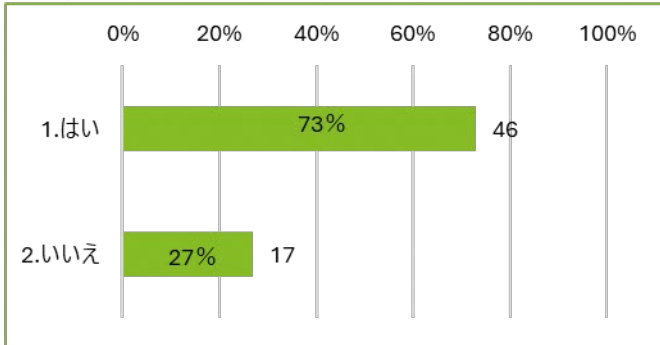
1. これまで防災訓練に何回参加しましたか。



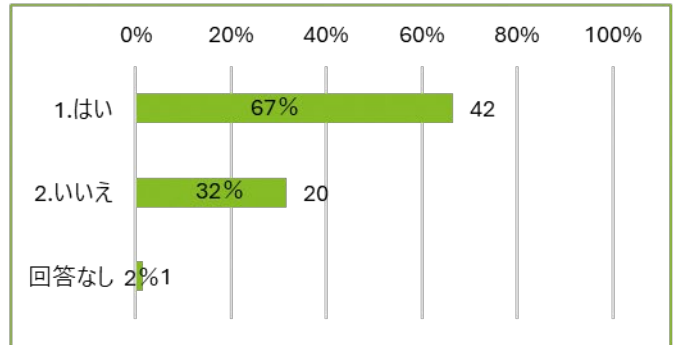
2. 今回の訓練に参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法が分かりましたか。



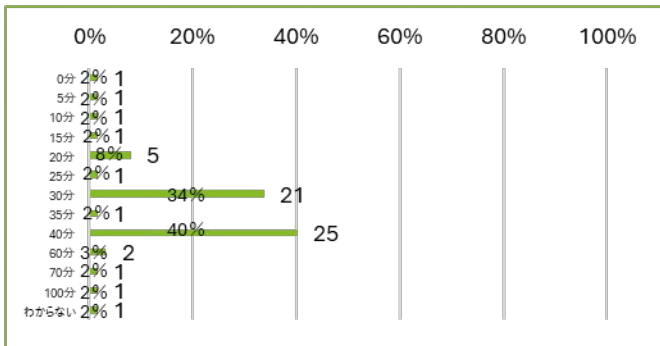
3. 岸和田市が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか。



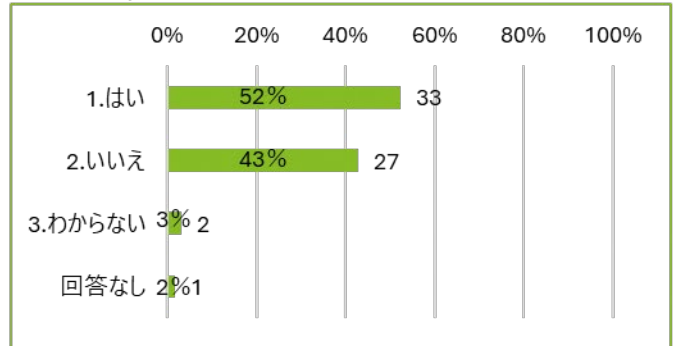
4. 避難経路に危険な場所がありましたか。



5. 災害発生時にいた場所(野村中学校)から避難先(大宮地区公民館)まで何分くらいかかりましたか。



6. あなたの周囲や近所に避難行動要支援者(自力で避難することが難しく、周囲の支援が必要な方)はいますか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (和歌山県印南町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

和歌山県印南町について

- 和歌山県印南町は、紀伊半島西部海岸の中央部に位置し、人口は令和8年1月時点で7,461人。南西部が太平洋に面する山地・丘陵地・台地、北東部が紀伊山地西端の山地からなる。北東の山地ほど標高が高く、南西部ほど標高が低くなり、切目川、印南川、王子川によって開析されている。
- 海側は黒潮の影響で温暖な気候となっており、鯉節発祥の地として知られるほか、スイカやエンドウ豆の栽培が盛んである。
- 平成29年に町役場庁舎を高台に移設するなど、防災対策を強化している。



主な被害想定

- 南海トラフ地震が発生した場合時にはM9.1、最大震度6強、最大15mの津波の到達により、1,200名の死亡が予測されており、「東海・東南海・南海3連動地震」が発生した場合は最大震度7となることが想定されている。
- 地震・津波の他、台風常襲・多雨地域であり、過去に多くの風水害も発生している。



訓練概要

■訓練想定：「南海トラフ巨大地震」が発生し、震度6強以上の揺れと、最大高15mの津波による被害を想定。

■実施日時：【防災講演会】 令和7年9月4日(木) 19:00～21:00
 【訓練実施前WS】
 沿岸部(印南地区) 令和7年10月9日(木) 19:00～20:30
 沿岸部(切目地区) 令和7年10月14日(火) 19:00～20:30
 山間部 令和7年10月16日(木) 19:00～20:30
 中学生向け 令和7年10月21日(火) 13:30～15:00
 【地震・津波防災訓練】 令和7年11月1日(土) 7:30～13:00
 【訓練実施後WS】
 沿岸部(切目地区) 令和8年2月17日(火) 19:00～20:30
 沿岸部(印南地区) 令和8年2月18日(水) 19:00～20:30

■主催：印南町

■アドバイザー：和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 小池信昭教授

■参加者数：500名

■参加機関：地域住民(沿岸部・山間部)、地元小中学生、自主防災会、防災士の会、消防団、社会福祉協議会、民生児童員、日赤奉仕団、日高広域消防事務組合、御坊警察署、陸上自衛隊、和歌山県防災航空センター、日本栄養士会災害派遣チーム(JDA-DAT)、関西大学城下ゼミ、印南町教育委員会、印南町、和歌山県

■訓練項目：シェイクアウト訓練、地震・津波避難訓練、職員参集訓練・通信訓練、自主防災訓練、避難所運営訓練、災害初動期対応訓練、展示ブース説明、防災へり救助訓練

■訓練の特色：訓練前に防災講演会を実施し、地元の住民向けに改めて防災の啓発を行ったほか、沿岸部と山間部に分け、それぞれの想定される被害に応じたワークショップを複数回実施した。
 訓練は「地震・津波避難訓練」、「避難所運営訓練・初動期対応訓練」、「防災体験学習」の3部構成とし、各地区で避難訓練・避難所運営訓練の後、主会場にて体験学習を実施した。

訓練の成果

【成果】

- 町内の小・中学生の参加を呼び掛けて大規模に実施したため、町内全体として防災意識の向上につながった。
 防災体験学習において、警察や消防の協力を得て車両を展示するなど、家族連れでも参加しやすい体験内容を多く準備したため、若年層を含む多くの地域住民の参加につながった。

【課題】

- 学生以外の地域住民の訓練参加が一定程度にとどまったため、参加者の裾野を広げる工夫を検討する必要がある。

10月 訓練実施前ワークショップ

- ・ 印南地区・切目地区（沿岸地区）向けの訓練前ワークショップでは津波に対する研修、山間地区向けには土砂災害についての研修、中学生向けには講話と避難行動についての研修を実施した。
- ・ 避難行動が遅れてしまう要因について考える機会となったといった意見が挙がった。

▼グループワーク



▼グループごとに気づきを共有



11月1日(土) 7:30～13:00 地震・津波防災訓練

- ・ 3部構成で訓練を実施した。

- ・ 第1部の地震・津波避難訓練では、サイレン放送・エリアメール受信後、各避難場所に避難した。
- ・ 第2部の避難所運営訓練、初動期対応訓練では、段ボールベッド、かまどベンチの組み立てを実施した。
- ・ 第3部の防災体験学習では、燻煙体験や自走式水洗トイレカー見学を実施した。

▼子連れで防災センターに避難する参加者



▼かまどベンチの組み立て



▼家庭での防災対策を紹介する展示パネル



▼本部にて避難状況を把握する町役場職員



▼小学生向け講義



▼燻煙体験



2月 訓練実施後ワークショップ

- ・ 切目地区向けの訓練後ワークショップでは、避難所の環境改善のために、地区内外から調達できるもの、現段階で役場と連携をとること、役場に要望しておくべきことについて意見交換をした。

- ・ 印南地区向けの訓練後ワークショップでは、家族の無事を知らせる「黄色の旗」の使用目的と経緯を確認した。

▼印南地区の訓練後ワークショップ



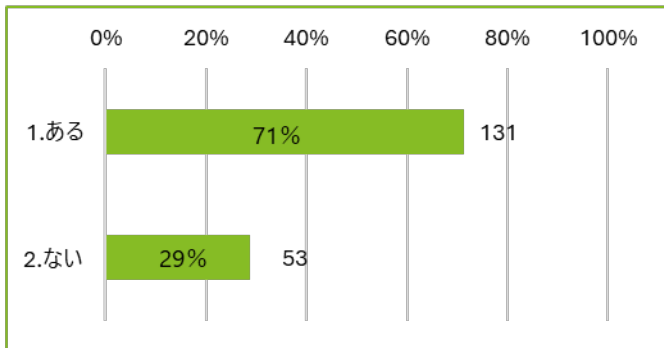
▼切目地区の訓練後ワークショップ



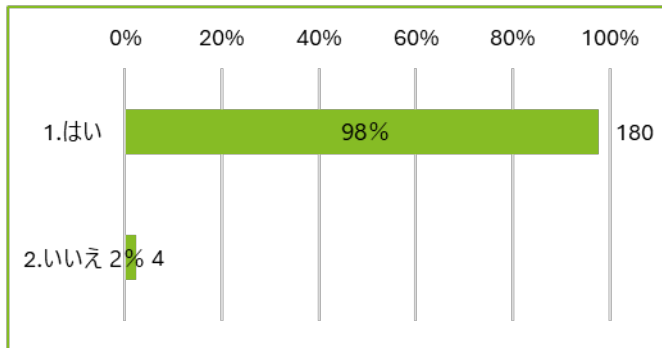
アンケート結果

回答数：184

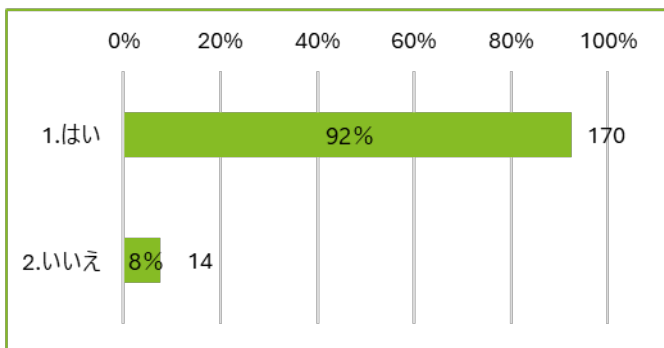
1. 過去に防災に関する講話・ワークショップなどに参加したことはありますか。



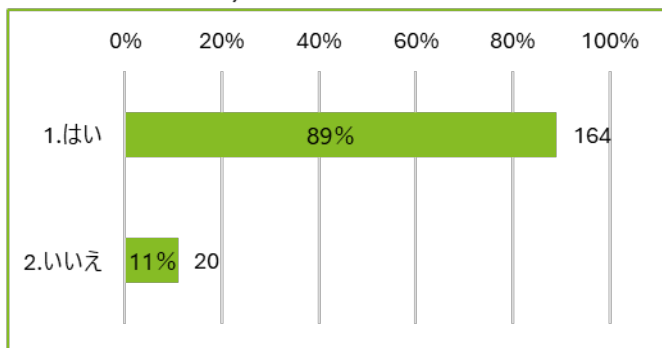
2. 今回の講話会を通して、災害に対する備えを改善しようと思いましたが。



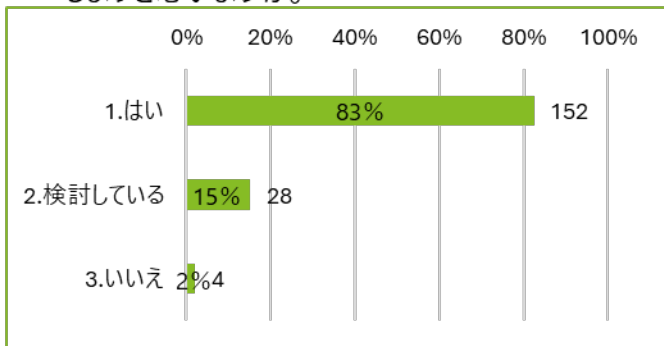
3. 印南町のハザードマップを見たことはありますか。



4. お住まいの地域の災害リスク(どこに、どのような危険があるか)を知っていますか。



5. 11月1日(土)実施予定の避難訓練に参加しようと思いませんか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (愛媛県愛南町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

愛媛県愛南町について

概要

- 愛媛県愛南町は、南宇和郡の旧5町村が平成16年10月1日に合併し誕生した。
- 人口は令和8年2月1日時点で18,055人であり、うち65歳以上の人口は約48%である(合併時の人口は28,783人)。面積は約239km²である。
- 愛媛県の最南端に位置し、南は太平洋、西は豊後水道、東は高知県に面している。自然環境や水産資源に恵まれ、スキューバダイビングでも有名。
- 南宇和郡の北部には四国山脈から分岐した篠山支脈があり、ここから発する僧都川流域の平野部に市街地が形成されている。



主な被害想定

- 南海トラフ地震が発生した場合には、震度6強の揺れと、最大16.2mの津波が想定される。
- 急峻な地形から、台風や集中豪雨による河川の氾濫、浸水、土砂災害等の被害が想定され、中山間部に位置する集落は道路が通行止めになる可能性がある。



訓練概要

- 訓練想定：高知県沖を震源域とする南海トラフ地震により、愛南町では震度6強を観測し、愛媛県宇和海沿岸に大津波警報を発表。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年10月12日(日)09:00～11:30
【地震・津波防災訓練】 令和7年11月16日(日)09:00～12:00
【訓練実施後WS】 令和7年11月16日(日)13:30～15:00
- 主催：愛南町
- アドバイザー：国立研究開発法人防災科学技術研究所 辻岡 綾 研究員
- 参加者数：230名
- 参加機関：愛媛県社会福祉協議会、愛南町社会福祉協議会、愛媛県災害時要配慮者支援チーム、深浦地域住民、古月・鮪越・深浦(三地区)自主防災会、愛南漁業協同組合、安高水産有限会社、有限会社ハマスイ、きくち水産、田村水産有限会社、株式会社久徳水産由貴丸、株式会社明正建設
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所設置・運営訓練、福祉避難所設置・運営訓練、炊き出し訓練
- 訓練の特色：避難訓練に当たっては、漁業組合や漁業事業者の協力のもと、外国人実習生が自力での避難が困難な方の避難を支援した。福祉避難所設置・運営訓練では、要支援者本人の参加のもと、設営、スクリーニング、移送、受け入れまでの一連の動きを訓練した。

訓練の成果

【成果】

- 参加住民約170名(要配慮者13名含む)で、対象地区の住民参加率が40%を超え、地域の防災意識の高さが確認された。
- 今回の訓練は「避難所への避難」と「福祉避難所の運営」に重点を置き、現場での実践を通じて具体的な課題や改善点を把握することができた。
- 本訓練を機に、各種関係機関とのネットワーク・連携体制を構築できた。
- 今回の訓練の成果、住民からの意見を反映し、避難所ごとの運営マニュアルの整備を進めている。

【課題】

- 避難所運営において、受付時に住民に役割を付与するなど、主体的な参加や役割分担をより促す工夫が必要である。
- 小学生や外国人住民など多様な住民が、訓練や防災活動に参加することを促進し、多角的な視点での意見を集めることで、地域全体で防災力向上を目指すことが望まれる。

10月12日(日) 09:00～11:00 訓練実施前ワークショップ

- 住民主体の避難所の立ち上げ・運営を行う意識向上のため、訓練前ワークショップを実施した。
- 辻岡アドバイザーの講話、具体事例についての対応方針を協議するワークを実施した。
- 避難所の校舎の鍵管理、避難所内の居住区管理、靴の管理等について意見が挙げられた。

▼辻岡アドバイザーによる講話



▼参加者全員によるワーク



11月16日(日) 09:00～12:00 地震・津波防災訓練

- 避難行動要支援者の避難を補助しながら、各集落から一時避難場所、指定避難所である旧深浦小学校体育館へ移動した。

▼一時避難場所へ参集



▼避難所入口にて受付を実施



▼避難所内概観



- 避難所設営では、パーティション・エアベッドを用いた居住区画の整備を行った。

- 要配慮者として個別避難計画に登録のある地域住民参加のもと、要配慮者のスクリーニング、福祉避難所への移送、受け入れを実施した。

▼スクリーニング訓練



▼福祉避難所への移送



▼炊き出し訓練



- 地域住民コミュニティによる鯛めしおにぎりともそ汁250食の炊き出し訓練を実施した。

11月16日(日) 13:10～15:00 訓練実施後ワークショップ

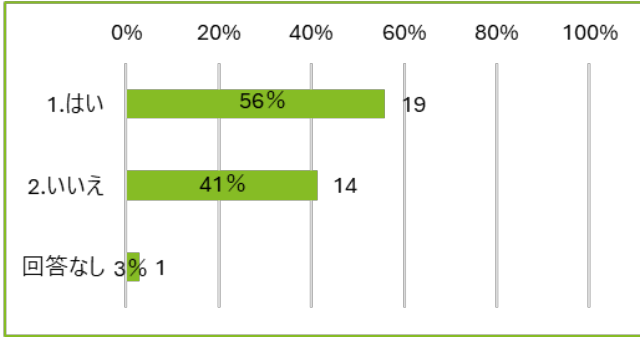
- 訓練同日に訓練の振り返り、辻岡アドバイザーの講話、今後の取り組みを検討するワークショップを実施した。
- 一時避難場所から避難所に向かう避難路の整備、受付の実施方法、レイアウト図の整備などの意見が挙げられた。

▼参加者全員によるワーク

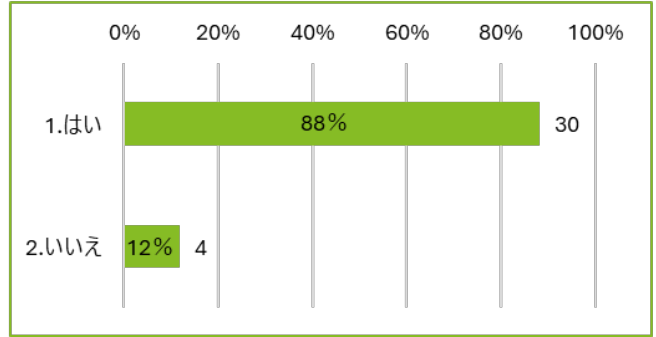


アンケート結果

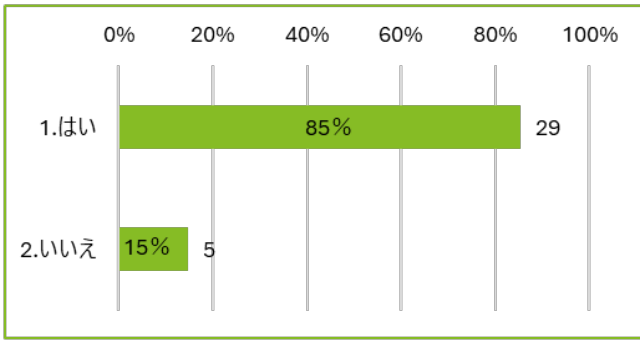
1. 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていましたか。



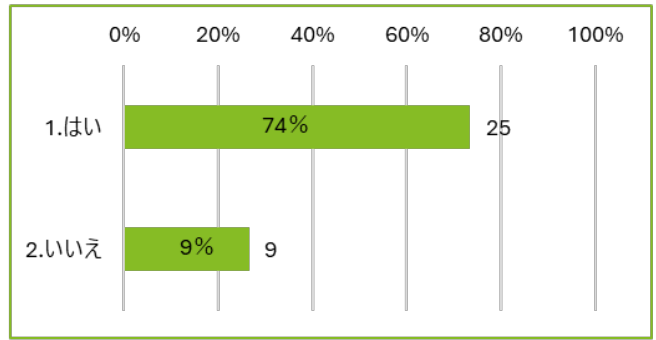
2. 町が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか。



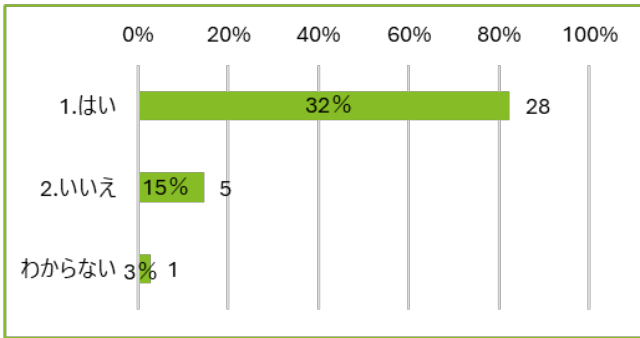
3. 災害のリスク(災害時、お住いの地域のどこに、どのような危険があるか)を知っていますか。



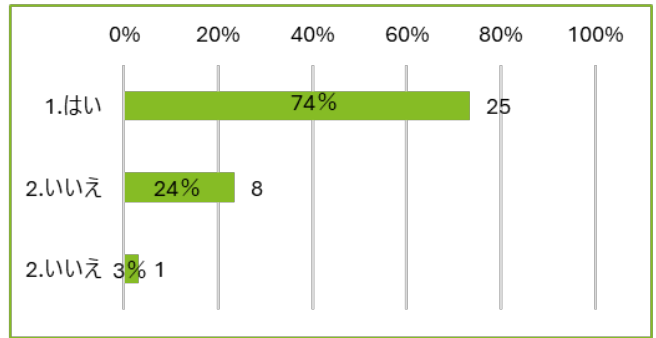
4. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うか決めてありますか。



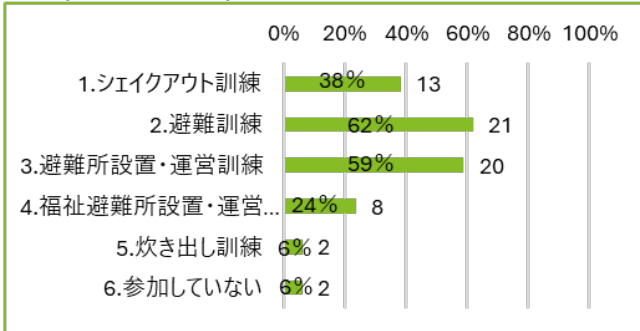
5. あなたの周囲や近所に避難行動要支援者(自力で避難することが難しく、周囲の支援が必要な方)はいますか。



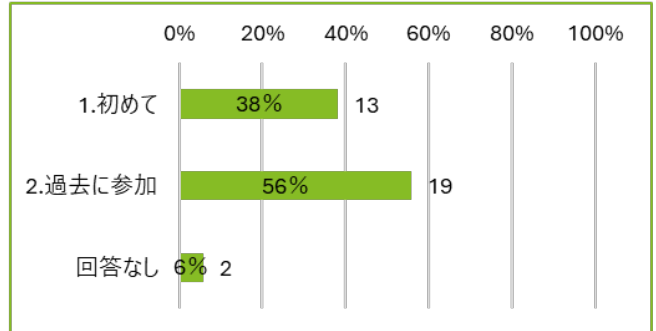
6. 自宅に3日以上の備蓄品はありますか。



7. 本日の防災訓練では、どちらに参加しましたか。(複数回答可)



8. 地域の防災訓練に参加したのは初めてですか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (高知県安芸市・内閣府)

実施報告書 (概要版)

高知県安芸市について

- 高知県安芸市は、高知県の東部に位置し、南は東西約19kmの海岸線が土佐湾に面している。北部は徳島県に接する。
人口は令和7年3月時点で15,377人である。
- 安芸山地から土佐湾にかけての山稜と海岸線の低地と海岸段丘からなる。温暖で日照時間の長い気候を活かし、ナスやユズなどの農業が盛ん。岩崎弥太郎の出身地としても知られる。
- 市内の中学2年生を対象に、隔年で避難所開設運営訓練、医療救護所開設運営訓練を実施している。

主な被害想定

- 最大クラスの南海トラフ地震が発生した場合、市内の最大震度7、沿岸部に最大約15mの津波が到達することが予測されている。
- 安芸川、伊尾木川河口が高波で閉塞しやすく、津波発生時には遡上にも注意が必要で、下流部は液状化現象が発生する可能性がある。
- 市街地への主な出入り口は国道55号のみで、孤立状態となる可能性がある。



訓練概要

- 訓練想定：大地震の発生及び大津波警報の発表。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年12月8日（木）11:00～12:50
【地震・津波防災訓練】令和7年12月14日（日）9:00～12:00
【訓練実施後WS】 令和7年12月14日（日）12:00～12:30
- 主催：安芸市
- アドバイザー：高知大学地域協働学部防災推進センター 大槻知史教授
- 参加者数：90名
- 参加機関：安芸市立安芸中学校生徒、地域住民、自主防災組織、陸上自衛隊
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所運営訓練、炊き出し訓練
- 訓練の特色：災害時の避難拠点としての機能を備えて令和6年4月に開校した安芸中学校で、中学生主体の避難所運営訓練を行い、新たに作成した避難所運営マニュアルの内容を検証し、改善点を抽出する。
参加者向けに、事前に防災教育ツール「さすけなぶる」を使用した避難所運営の問題解決ワークショップを実施し、発災直後だけでなく長期的に避難者の生活拠点としての利用イメージを持つ。

訓練の成果

【成果】

- 地域の避難拠点としての機能を備えて新設された安芸中学校において、実動訓練を実施することで避難所運営マニュアルの検証の機会となり、具体的な改善事項が抽出された。
- 学校、市関係者、自主防災組織の顔合わせの機会となり、マニュアルの改善、災害時の対応方針に関する意見を交換し、共有することができた。
- 避難所の運営は中学生にとって難易度が高い取り組みであったが、真剣に取り組み、実施後に建設的な意見を出していた。
- 最大約800人を収容する規模の避難所が、災害発生時にどのような状況となるのか、中学生が避難生活をイメージする機会となった。

【課題】

- 災害時に施設管理者となる学校側との役割分担をあらかじめ明確にしておく必要がある。
- 中学生が訓練に参加する場合には、事前説明や事前準備の時間を十分に確保する必要がある。

12月8日(月) 11:00～12:50 訓練実施前ワークショップ

- 過去の災害で起こったこと、揺れ対策や津波対策避難所開設までに起こることを講義した。
- 防災教育ツール「さすけなぶる」を使用して、避難所生活が長期化した場合に起こる問題について考えた。

▼大槻アドバイザーによる講義



▼生徒同士で議論



12月14日(日) 9:00～12:00 地震・津波防災訓練

- 各教室でシェイクアウト訓練を実施後、体育館への避難を実施した。
- 中学生が4班に分かれて、自主防災組織のメンバー等の指示のもと、避難所の設置準備・運営訓練を実施した。
- 陸上自衛隊が炊き出し訓練を実施し、訓練後には中学生が実際に試食した。

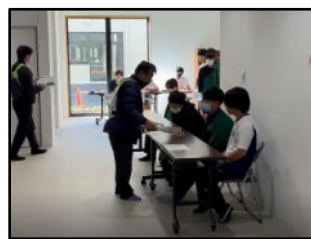
▼体育館への避難



▼施設の状況を確認する中学生



▼避難カード準備



▼テントやラインコントロールの組み立て



▼避難所の受付



▼情報伝達・総務班の情報伝達



12月14日(日) 12:00～12:30 訓練実施後ワークショップ

- 訓練の振り返りを実施し、避難所運営マニュアルに反映した。
- 情報伝達にて混乱が生じたため、独立した班ではなく各班に情報伝達担当を置くと良いといった意見が挙がった。

▼振り返りを行う参加者



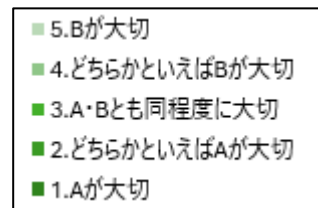
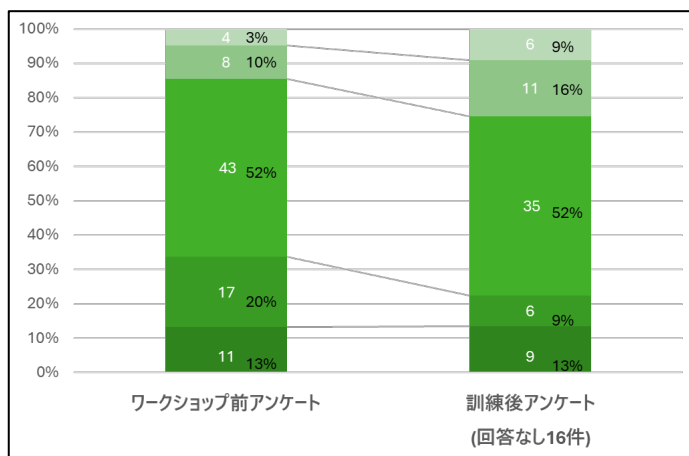
アンケート結果

回答数:84

事業の前後で、参加者の意識がどのように変わったのか検証するアンケートを実施した。

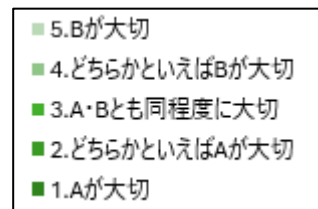
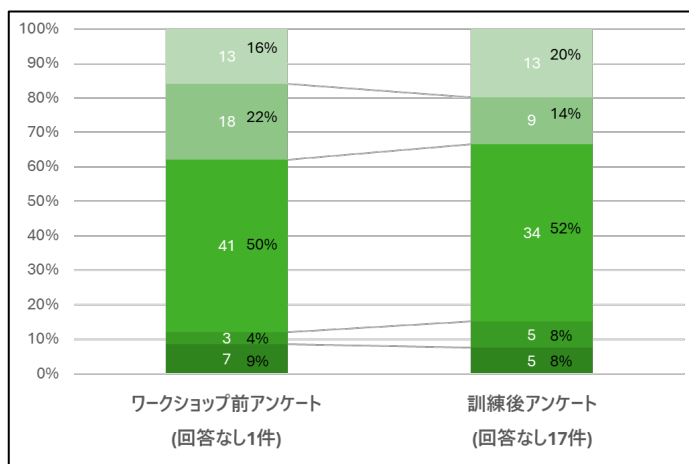
1. あなたが避難後に避難所のお手伝いをするとして、大切なのはどちらの観点だと思いますか。各質問についてあなたの実感に近いものに○をつけてください。

A.避難所の秩序を守ること / B.避難者個人の意思を尊重すること



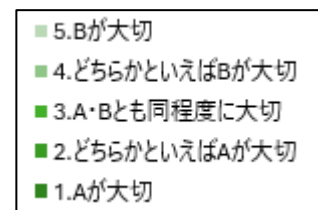
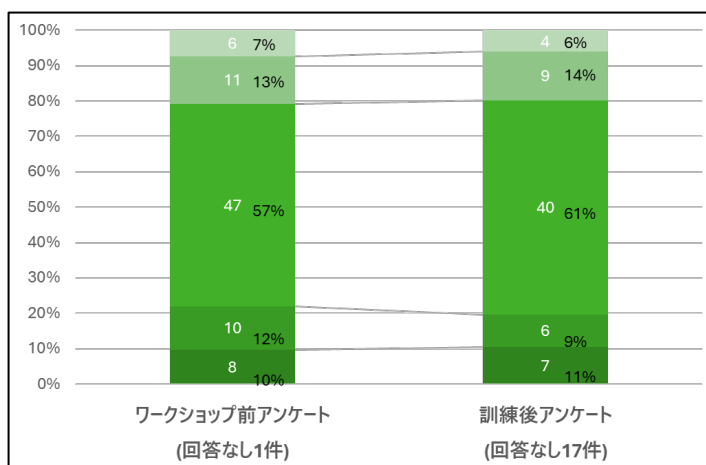
2. あなたが災害後に避難所をお手伝いをするとして、大切なのはどちらの観点だと思いますか。各質問についてあなたの今の実感に近いものに○をつけてください。

A.規則や手順を守ること / B.状況にあわせた対応をすること



3. あなたが災害後に避難所をお手伝いをするとして、大切なのはどちらの観点だと思いますか。各質問についてあなたの今の実感に近いものに○をつけてください。

A.避難者の公平性を保つこと / B.より困っている避難者を優先すること



令和7年度地震・津波防災訓練 (高知県南国市・内閣府)

実施報告書 (概要版)

高知県南国市について

- 高知県南国市は、高知県中央部に位置し、高知龍馬空港がある。南は土佐湾に面した沿岸部となっており、北部の山間部を除き、中部・南部は香長平野が広がる比較的平坦な土地となっている。
- 令和8年2月時点で人口は45,461人であり、県内第二の都市である。面積は約125km²である。
- 年間の降水量は2,400mmを超え、全国有数の多雨地域である。
- 「土佐日記」で名高い紀貫之が国司を務めた土佐国の国衙があった。

主な被害想定

- 南海トラフ地震が発生した場合、震度6弱～7の地震動、場所によって10mを超える巨大津波が到達することが想定される。地盤が軟弱な河川流域の平野部に人口が集中しているため、津波や液状化により大規模な被害が発生するおそれがある。



訓練概要

- 訓練想定：高知県室戸岬沖を震源とした推定M8.8の地震が発生し、南国市役所で震度6強の揺れを観測。
西日本太平洋沿岸に大津波警報が発表される。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年9月28日(日)10:00～12:00
【地震・津波防災訓練】令和7年10月26日(日)8:30～12:30
【訓練実施後WS】 令和7年11月8日(土)10:00～11:30
- 主催：南国市
- アドバイザー：高知大学地域共働学部 藤岡正樹教授
- 参加者数：約200名
- 参加機関：地域住民、南国市防災会連合会、香南中学校、日章地区自主防災協議会、日本赤十字社、アクアデザイン株式会社、高知県獣医師会、高知県愛玩動物協会、南国市国際交流協会
- 訓練項目：災害対策本部運営訓練、津波避難訓練、避難所設置・運営訓練、救護訓練、炊き出し訓練、ペット避難訓練
- 訓練の特色：避難所運営訓練を防災連合会主導で企画・運営した住民主体の訓練であった。
災害対策本部運営訓練は多くの職員が参加し、災害対応用のシステムを活用しながら、目標管理型のアプローチで複雑な情報の分析・処理を行う実践的訓練であった。

訓練の成果

【成果】

- 災害対策本部訓練は90名超の職員が参加し、複雑な状況付与にも対処できた。
- 避難所運営訓練では、救護訓練やペット避難訓練など、住民が積極的に多様な訓練に参加できた。

【課題】

- 一部中学生の参加もあったものの、参加している住民は年齢層が高い傾向があった。家族連れや外国人・留学生など、より参加者層を広げる工夫を検討する必要がある。

9月28日(日) 10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

- 市内での個別避難計画作成促進のため、実際に計画作成を体験し、今後の整備に向けた課題を話し合うワークショップを実施した。
 - 個人ワークでは、南国市の様式を使用して、避難行動要支援者・救護台帳を作成した。
 - グループワークでは、個別避難計画作成に当たっての課題、個別避難計画の活用方法について議論した。
- 個別避難計画を作成するに当たって、「様式への記入事項が多すぎると作成負荷が大きいいため、項目を絞り込んだ方がよい」などの意見が挙げられた。

10月26日(日) 8:30～12:30 地震・津波防災訓練

- 災害対策本部運営訓練では、参加者は家屋や人的被害、津波等約70の情報を整理し、班ごとに集約・分析するワークを実施した。
- 住民は訓練開始の放送を受け、近くの避難タワー等に避難。避難先で防災無線等の設備に関する説明を受けた。
- 日章福祉交流センターにて避難所を設営し、居住区画の作成、受付の実施、救護訓練、ペット避難スペースの設置、炊き出し訓練等を実施した。

▼災害対策本部
運営訓練



▼津波避難タワーに
避難する住民



▼津波避難タワーで
備品の説明を受ける



▼避難所運営訓練で
設営されたテント



▼救護訓練



▼炊き出しを手伝う
中学生



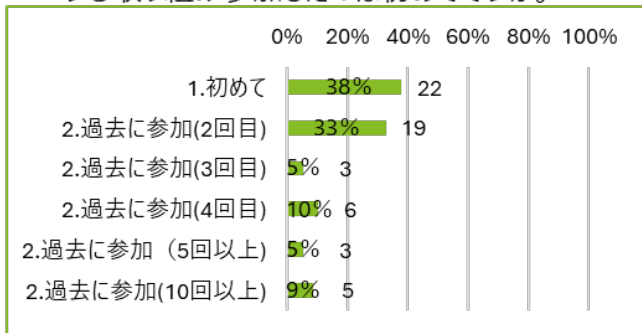
11月8日(土) 10:00～11:15 訓練実施後ワークショップ

- 藤岡アドバイザーによる訓練当日の振り返り後、参加者同士で訓練の成果や気が付いた改善点について話し合った。
- 「炊き出し訓練における鍋の位置や避難所内の居住スペースと窓との距離など、余震を意識した訓練が必要」との意見が挙げられた。

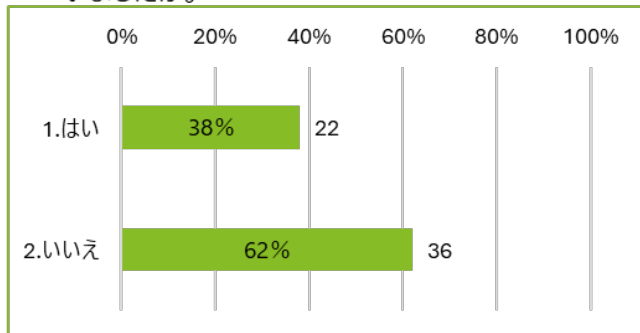
アンケート結果

回答数：58

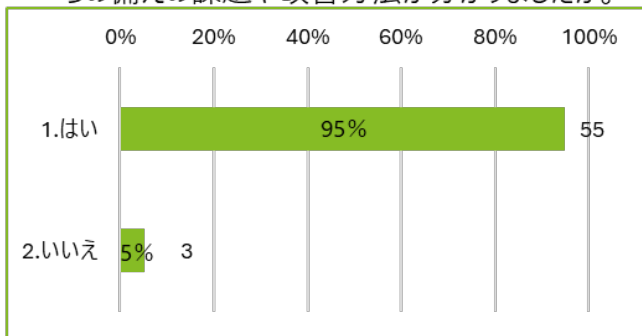
1. 防災訓練やワークショップのような地域防災に関する取り組み参加したのは初めてですか。



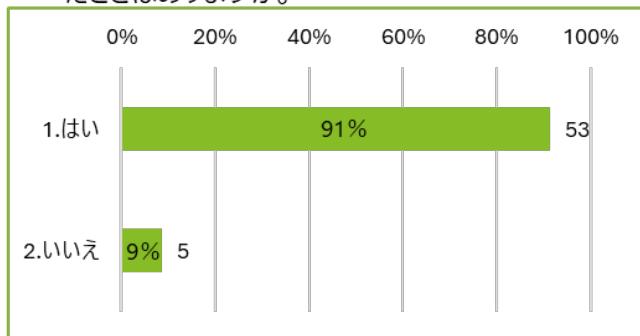
2. 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていましたか。



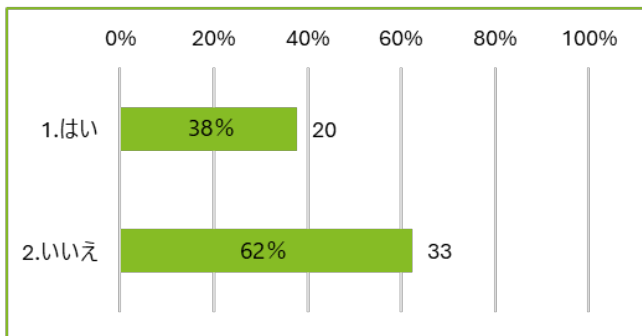
3. 今回のワークショップに参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法が分かりましたか。



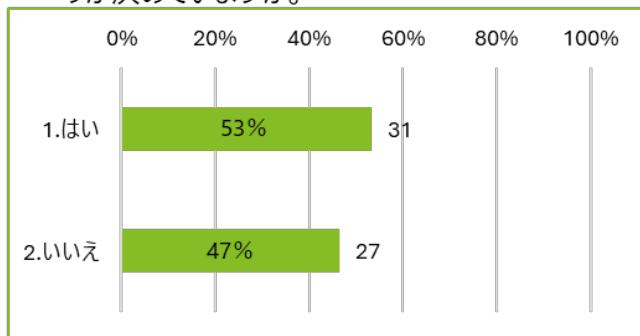
4. 南国市が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか。



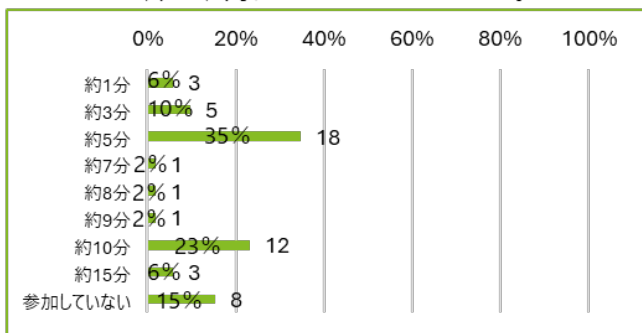
5. 避難経路に危険な場所がありましたか。



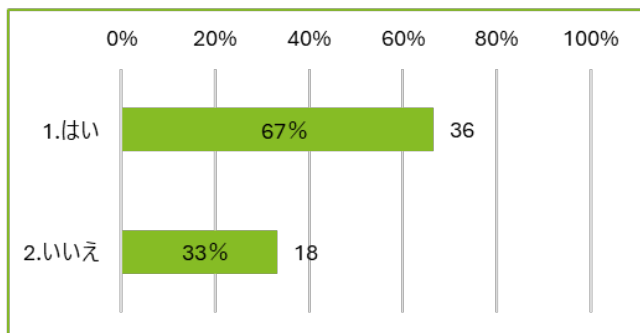
6. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うか決めていますか。



7. 避難先（一時避難場所、津波避難タワー）までの避難に、何分くらいかかりましたか。



8. あなたの周りや近所に避難行動要支援者はいますか。

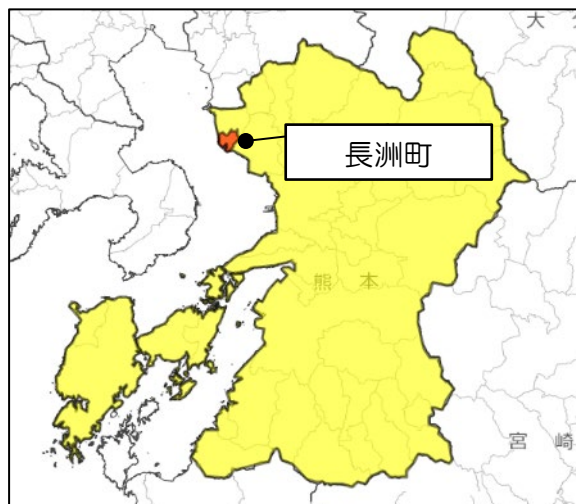


令和7年度地震・津波防災訓練 (熊本県長洲町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

熊本県長洲町について

- 熊本県長洲町は、熊本県の北西端に位置し、有明海に面している。
- 地形は比較的平坦で、東部の丘陵地でも標高は35m以下である。
- 人口は令和8年2月末時点で14,155人、面積は約19km²である。
- 金魚や錦鯉の養殖業が盛んなことで全国的に知られている。
- 平成28年4月に発生した熊本地震において長洲町では震度5強を観測したが、人的被害・家屋倒壊等の大きな被害はなかった。



主な被害想定

- 熊本県が実施した「熊本県地震・津波想定調査結果(平成25年2月)」における被害想定によると、南海トラフ地震による津波高は3.0TPmに達すると想定されている。



訓練概要

<全町訓練>

- 訓練想定：雲仙断層群を震源とする地震により、長洲町で最大震度6強を記録。また、この地震による津波警報を発表。
- 実施日時：【地震・津波防災訓練】令和7年10月25日（土）10:00～12:00
- 主催：長洲町
- アドバイザー：熊本大学大学院先端科学研究部 竹内裕希子教授
- 参加者数：約130名
- 参加機関：長洲町町民、長洲町役場
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練、職員の招集と災害対策本部の設置運営訓練

<避難所設置運営の円滑化に向けた講義・演習等>

- 実施日時：
 - 【中学生向け防災専門家の講演会】令和7年9月19日（金）9:30～11:00
 - 【防災アドバイザーと長洲町幹部の懇話会】令和7年9月19日（金）13:30～14:30
 - 【中学校での避難所運営ゲーム（HUG）】令和7年10月9日（木）9:40～12:30
 - 【中学生向け避難所設置演習】令和7年11月4日（火）13:00～15:30
 - 【今後の避難所設置運営に関する検討会】令和7年11月4日（火）16:00～17:00
- 備考：避難所設置運営に焦点を当て、町幹部との懇話会や長洲中学校向けの講義や事前学習を実施した。

訓練の成果

【成果】

- 長洲町として初めての本格的な訓練であり、役場の防災意識を高める機会となり、今後の防災力強化のために必要な対応事項が明らかになった。
- 避難所設置運営の円滑化に向けた講義・演習等により、中学生の防災意識が向上したことから、今後も中学生への講義・演習を継続することを検討することとなった
- 防災士や学校関係者を交えた検討会を通じて、主体や手順の整理に向けた動きだしの機会となった。

【課題】

- 今回の訓練を受けて、中学生への講義・演習を今後も継続することを検討しているが、学年により実施内容を分けて、段階的に学ぶ形に変更することが望ましいと考えられる。

9月～10月 訓練実施前ワークショップ

- ・ 長洲中学校の生徒向けに、竹内アドバイザーより長洲町で発生した過去の災害についての講話を聞いた。
- ・ 防災専門家と長洲町幹部の講話では、行政職員の避難所運営に割く時間を減らすことが必要という意見が挙げられた。
- ・ 長洲中学校でHUGゲームを実施し、自身の班の結果だけではなくほかの班から気づきを得た。

▼竹内アドバイザーによる講演会



▼HUGゲーム



10月～11月 地震・津波防災訓練

・ 全町訓練

- ・ 住民は自宅から避難し、町に到着までに要した時間を報告し、防災情報の提供を受けた。
- ・ 災害対策本部会議を開催し、対策部ごとに災害対応に当たった。

▼役場の防災行政無線



▼災害対策本部設置運営訓練



▼避難所とWeb会議ツールで情報共有



・ 避難所設置運営の円滑化に向けた演習等

- ・ 災害対応支援団体による講演、段ボールベッドと仮設テント設営体験を実施した。

▼実際の避難所の写真を用いて実態の説明



▼段ボールベッドや仮設テント設営



▼設営体験の感想共有



11月4日(火) 16:00～17:00 訓練実施後ワークショップ

- ・ 防災士、町役場職員、学校職員、学校運営協議会と異なる立場の混在した3グループに分かれて訓練の振り返りや今後に向けた意見交換を実施した。
- ・ 校区単位での避難所運営マニュアルの作成が必要という意見が挙げられた。

▼学校職員のグループが話し合い



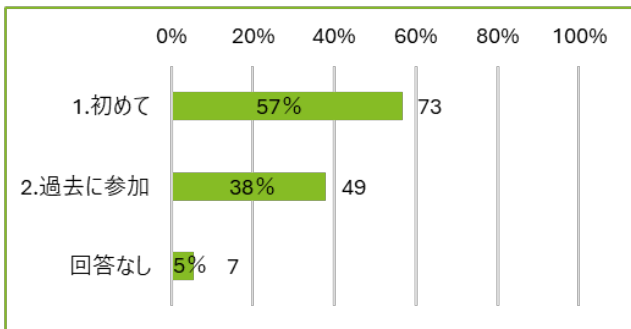
▼3班に分かれてワークショップを実施



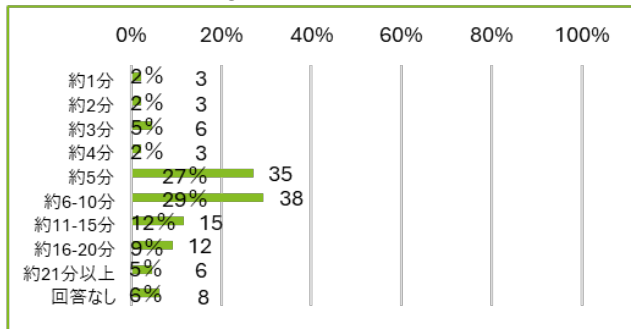
アンケート結果

回答数：129

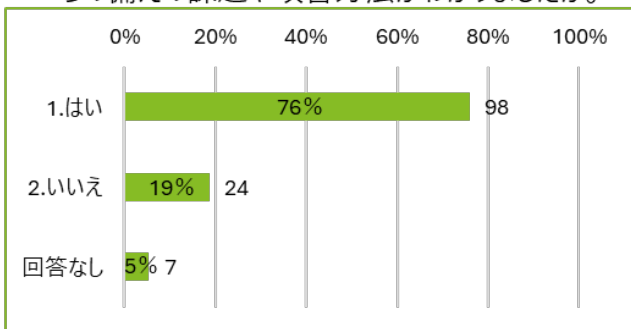
1. 地域の防災訓練に参加したのは初めてですか。



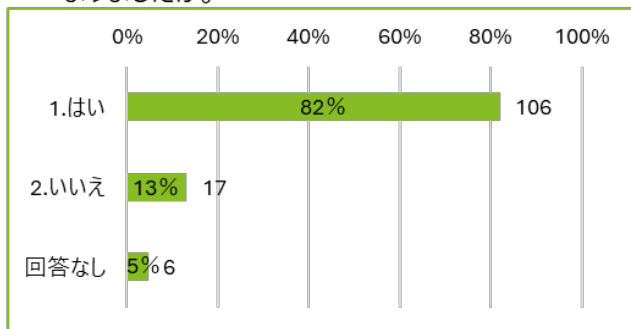
2. 地震発生時にいた場所(自宅等)から避難先(一時避難場所、津波避難施設)まで、何分くらいかかりましたか。



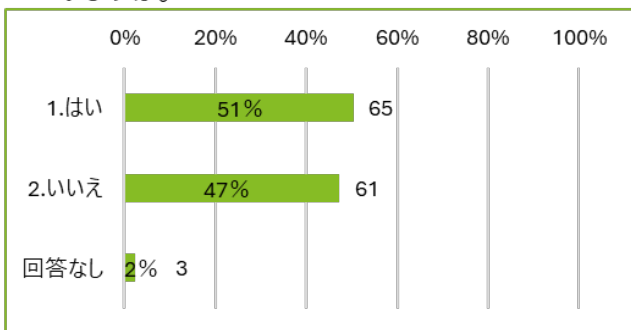
3. 今回のワークショップに参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法がわかりましたか。



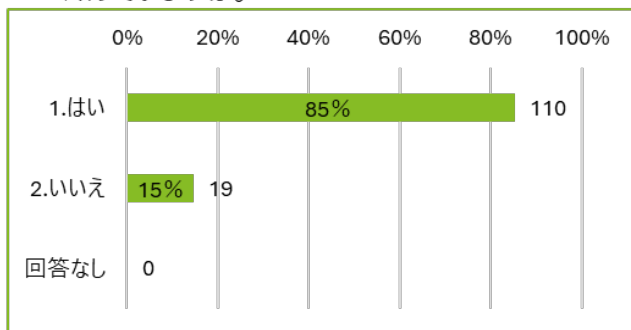
4. 今回の訓練を通じて災害への備えの意識は高まりましたか。



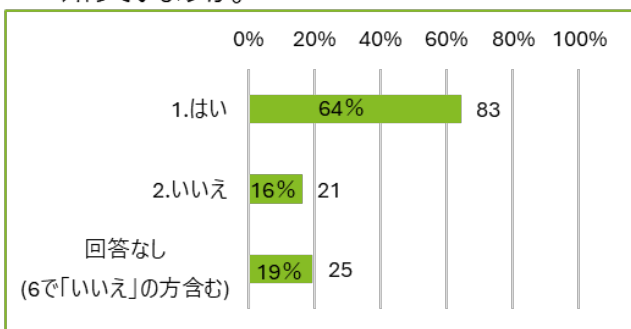
5. 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか。



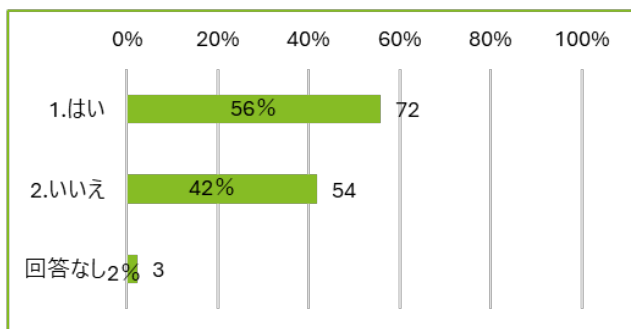
6. 長洲町が作成している「津波ハザードマップ」を知っていますか。



7. 【6で「はい」の方】災害のリスク(災害時、お住まいの地域のどこに、どのような危険があるか)を知っていますか。



8. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを決めていますか。



令和7年度地震・津波防災訓練 (沖縄県豊見城市・内閣府)

実施報告書 (概要版)

沖縄県豊見城市について

概要

- 沖縄県豊見城市は沖縄本島南部に位置し、令和8年2月時点の人口は65,876人、面積は約19km²であり、宅地開発が進み、平成14年の市制施行後、人口が増加している。
- 訓練の実施地区である豊崎地区は、人口5,328人。工業団地用地として平成9年に着工した埋立地であり、周囲を海や河川に囲まれた平坦な土地で、本島へは3本の橋で接続する。那覇空港に近い立地からリゾートホテルやショッピングモール、ビーチなど観光地としても人気で、産業別就業人口では第三次産業が約8割を占める。

主な被害想定

- 沖縄南東沖三連動マグニチュード9クラスなどで最大震度6強、約15分で津波が到達すると予測されている。また、埋立地であることから、液状化の危険性が高い。



訓練概要

- 訓練想定：沖縄南東沖三連動マグニチュード9クラスの地震発生により沖縄本島地方に大津波警報が発表され、豊崎地区に15分程度で大津波が到達して甚大な被害が発生。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和8年1月18日（日）14:00～16:00
【地震・津波防災訓練】令和8年2月15日（日）9:00～14:00
【訓練実施後WS】 令和8年2月15日（日）14:00～14:45
- 主催：豊見城市
- アドバイザー：地区防災計画学会員、Life + Life laboratory代表 松村直子氏
地域防災マネージャー、翁川医学地域研究所特別研究員 賀数淳氏
- 参加者数：約300名
- 参加機関：地域住民、豊崎地区自主防災会、豊崎自治会、豊崎中学校、豊崎小学校、各PTCA・CS、豊崎学童クラブ、豊崎児童クラブ、豊見城市防災士の会
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、在宅避難者等情報収集・提供訓練、情報伝達訓練、津波防災に関する講演会、ドローンを活用した被害調査体験、炊き出し訓練、防火訓練・煙幕体験、防災資機材・パネル展示
- 訓練の特色：本島へのアクセスが限られた埋立地であり、津波の到達予測時間は15分と避難の時間的余裕がないことから、地区内での垂直避難を浸透させることを訓練の目的としている。
訓練前ワークショップに加え、10回の事前学習を実施し、地域の災害リスクや避難行動モデルの浸透させる。

訓練の成果

【成果】

- 津波到達時間が短く、本島へのアクセスの限られた埋立地という地理的な条件であることから、命を守るためには垂直避難・徒歩避難が重要であることを、ワークショップや訓練を通じた繰り返しの啓発により、参加住民に浸透させることができた。
- 訓練前ワークショップや訓練には、訓練会場となった中学校の生徒だけでなく、幼児を含む子供連れの家族も参加し、幅広い参加者層となった。
- ドローン訓練など、市役所主導の訓練だけでなく、住民や自主防災会主体で企画・運営する訓練項目があり、地区住民の防災意識の高さが感じられた。

【課題】

- 避難訓練では会場の屋上に避難したが、冬季2月の実施にもかかわらず気温が高かったことから、熱中症対策を考慮した避難を検討する必要がある。

1月18日(日) 14:00～16:00 訓練実施前ワークショップ

- 豊見城市役所及び豊見城市防災士の会による地震の基礎知識や避難方法等に関するミニ講話を実施。参加者は実際の避難経路を豊崎地区の地図に書き込み、どこまで遠くまで逃げられるか試算するワークを行い、堅牢な高い建物への垂直避難を推奨する「豊崎式津波避難モデル」の解説と検証を行った。
- 参加者からは「水平避難では遠くまでは逃げられないと思った」という意見が挙がった。

▼豊崎地区の地図に避難経路を書き込む



▼総括する
松村アドバイザー



2月15日(日) 9:00～14:00 地震・津波防災訓練

- シェイクアウト訓練後、近所の住民が徒歩で豊崎中学校に参集し、階段を使用して屋上に避難した。

▼豊崎中学校に避難する住民



▼非常階段を解錠し、屋上に向かう参加者



▼学校教員により掲揚された津波フラッグ



- 津波避難に際して、豊崎中学校のグラウンドでは津波フラッグが掲げられた。屋上に避難した参加者はその場で安否確認を実施し、在宅避難者は自治会のLINEグループで安否確認を実施した。

▼中学生が作成した防災の講演会のチラシ



▼煙ハウス体験



▼ドローン操作を体験する子供



- 豚汁とおにぎりの炊き出し、ドローンの操作体験、煙ハウス体験等を実施した。

2月15日(日) 14:00～14:45 訓練実施後ワークショップ

- 訓練の良かった点、気づいた点について振り返りを実施した。

▼訓練を振り返る参加者



▼ワークショップのまとめ

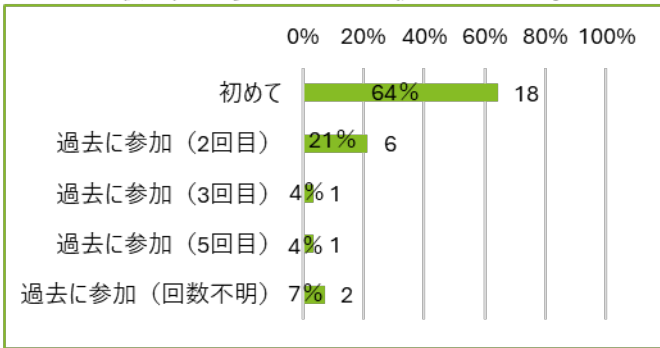


- 家族連れも多く参加できて良かったという意見が挙がった。

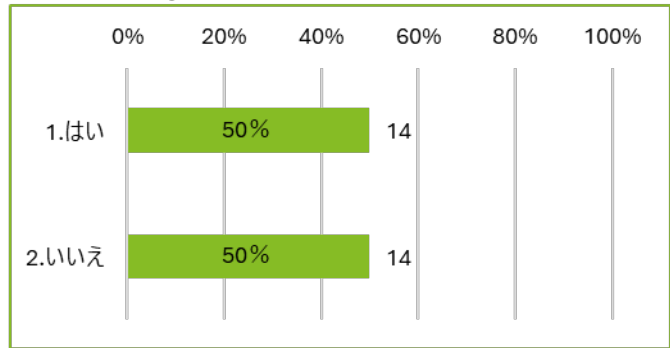
訓練実施前ワークショップアンケート結果

回答数:28

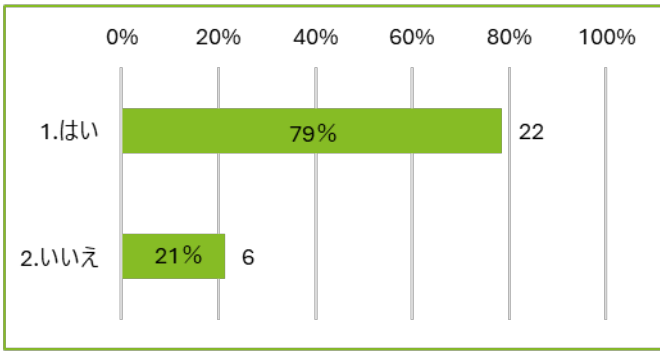
1. 防災訓練やワークショップのような地域防災に関する取り組み参加したのは初めてですか。



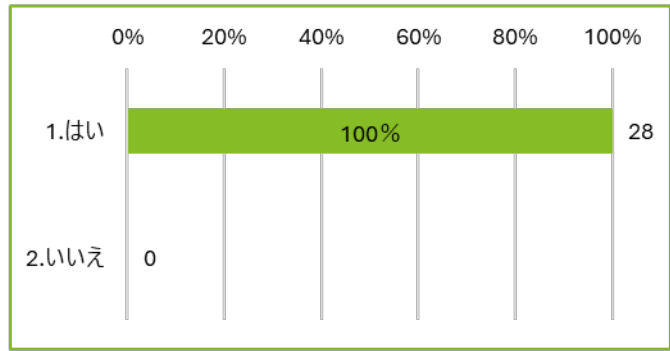
2. 11月5日が「津波防災の日」であることをしていましたか。



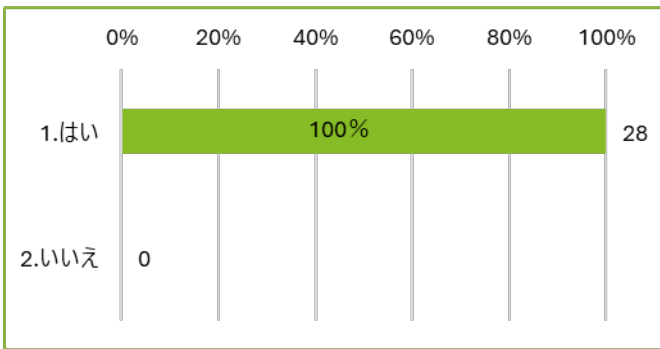
3. 市が作成している「津波ハザードマップ」を見たことはありますか？



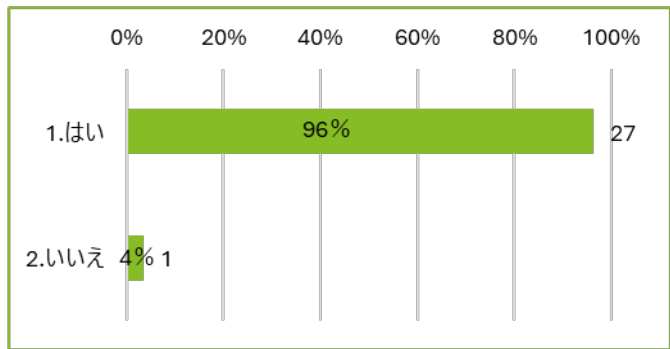
4. 今回のワークショップに参加し、地震・津波が発生した際に、お住まいのどこに、どのような危険があるか理解が深まりましたか？



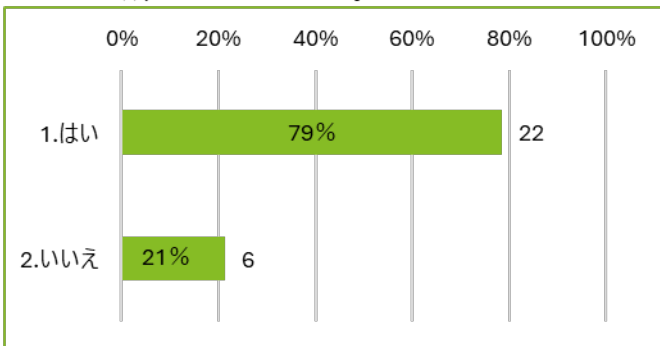
5. 今回のワークショップに参加し、地震・津波が発生した際、どのように命を守ればよいのか、具体的な行動がイメージできましたか



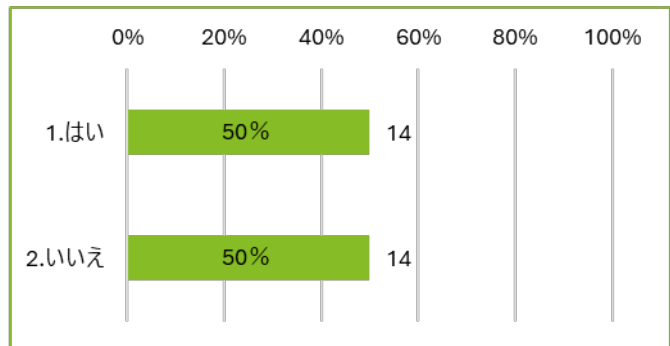
6. 今回のワークショップに参加し、津波から安全な場所に避難するために、どのくらいの時間が必要かイメージできましたか



7. ご自宅や職場から避難所への避難経路に危険な場所はあるのでしょうか。



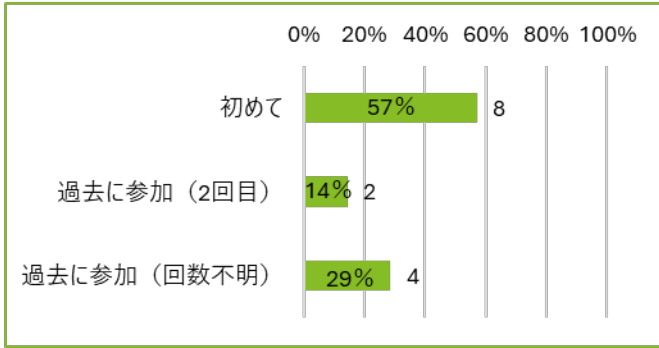
8. 災害時に家族同士でどのように連絡を取り合うか決めていますか。



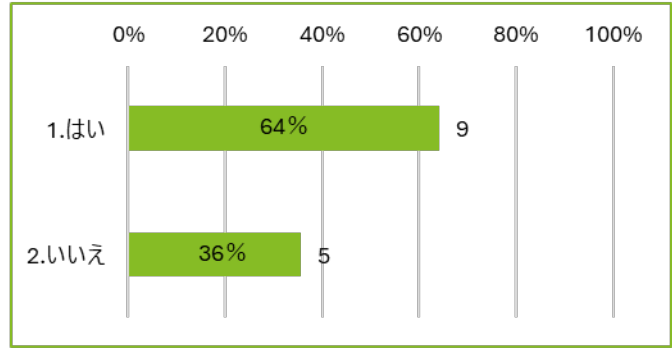
訓練後アンケート結果

回答数：14

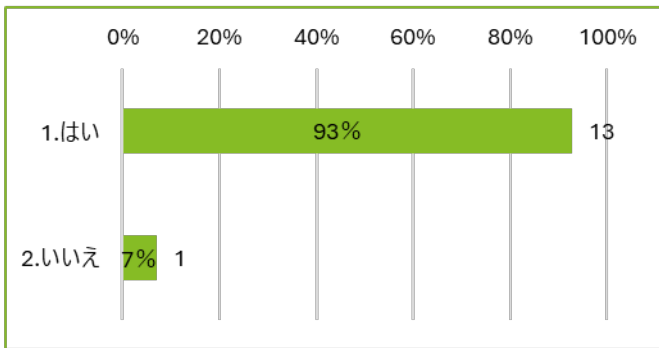
1. 地域の防災訓練に参加したのは初めてですか。



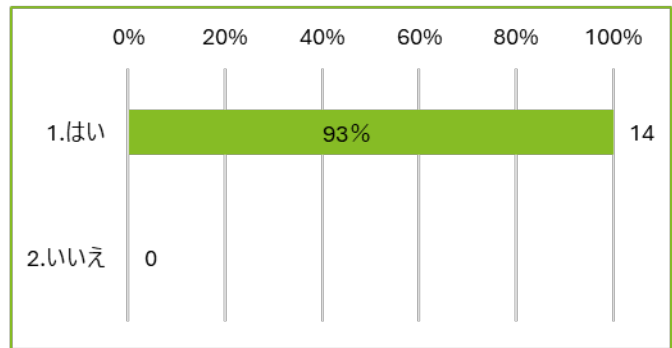
2. 11月5日が「津波防災の日」であることをしていましたか。



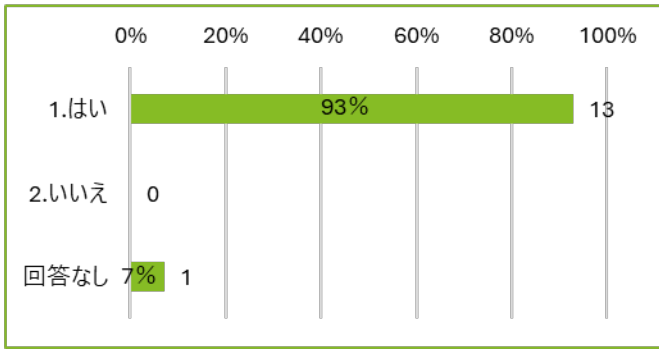
3. 今回の訓練・講演会に参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法がわかりましたか。



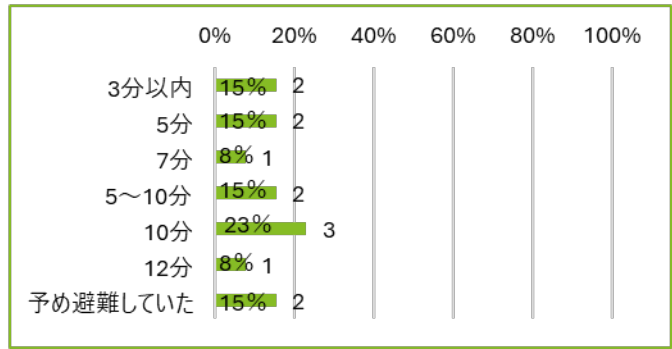
4. 豊見城市が公開している防災マップ（ハザードマップ）を見たことがありますか。



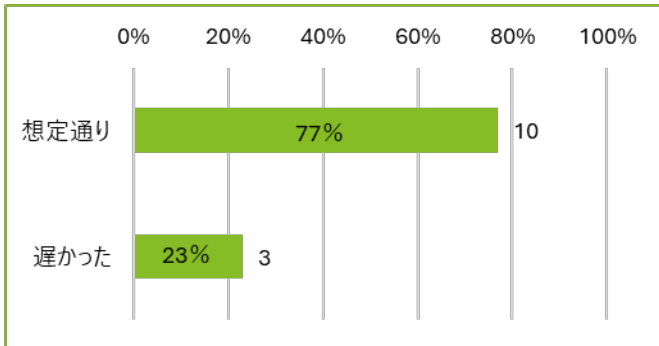
5. 【4で「はい」と回答した方】豊崎地区の災害のリスクを知っていますか。



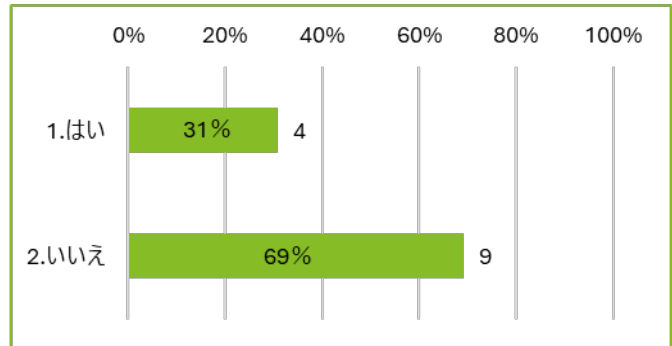
6. 地震発生時の放送が聞こえた場所から、避難先（豊崎中学校屋上、一時避難場所、津波避難施設等）まで何分くらいでしたか。



7. 避難先に到着するまでにかかった時間は想定通りでしたか。



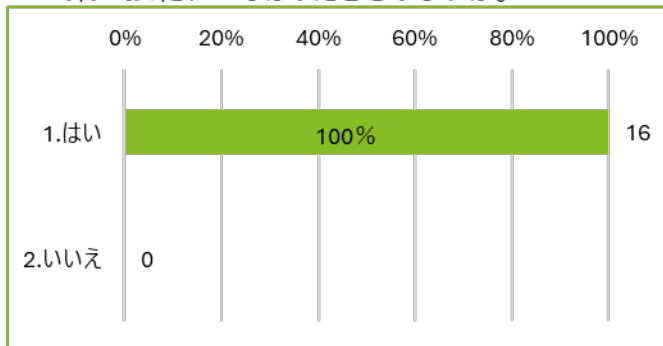
8. 避難経路に危険な場所がありましたか。



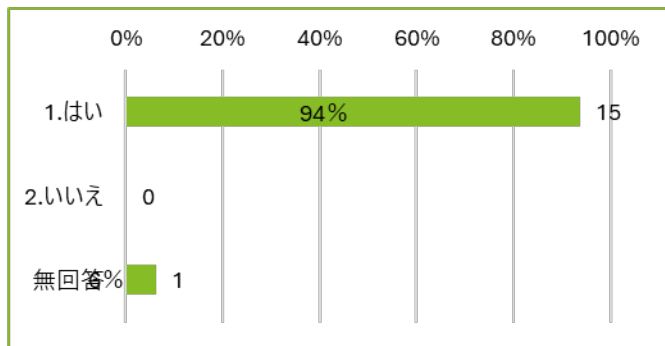
訓練実施後ワークショップアンケート結果

回答数:16

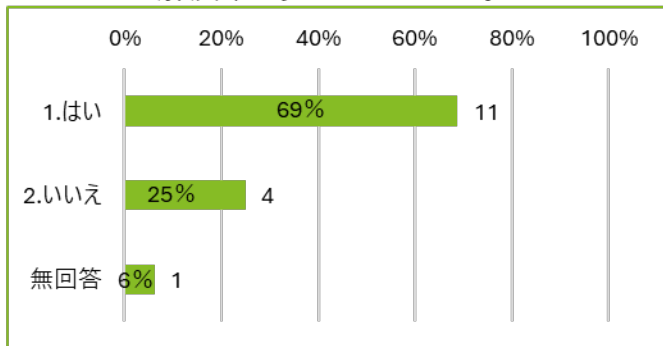
1. 今回のワークショップの内容は、地域の防災対策の強化につながったと思いますか。



2. 今回のワークショップや防災訓練を通じて、災害への備えの意識は高まりましたか。



3. 今回のワークショップを通じて、避難時における課題点や解決策は分かりましたか。



4. 今後どのような防災の取り組みに関心がありますか。（複数回答可）

